# 名古屋市精神保健福祉センター所報

第 22 巻　令和 4 年度版（2022 年度版）

名　古　屋　市

# はじめに

日頃より名古屋市精神保健福祉センターの事業につきましてご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。令和４年度版の所報をお届けいたします。

令和４年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年となりましたが、当センターで実施する研修や講演会等各種の事業に関しましては、概ね実施することができました。しかしながら、コロナ禍以前とは異なり、オンラインやハイブリットでの開催が多くなりました。研修や講演会、会議などをオンラインで行うことは、移動時間や交通費を掛けずに参加することができるなどのメリットもあります。当センターにおきましても、コロナ禍が長期化したことにより、オンライン開催の技法を取得し、令和4年度は多くの事業や会議等をオンライン開催やハイブリット開催で実施いたしました。一方では、実際に同じ場に集まり直接交流し参加者同士のコミュニケーションを通じて得られるものもあるため、感染症対策を行った上で、会場での開催も実施いたしました。今後も、事業や会議等の内容によって、実施形態を考慮し、一層充実した運営を行ってまいります。

さて、当センターは平成 30 年に依存症相談拠点として位置づけられ、依存症相談窓口を開設し、事業を充実させてまいりました。依存症相談員も令和４年度より１名増員し ３ 名の体制となり、ご本人やご家族への支援、各関係機関との連携を図っておりますが、未だ充分な支援を行うことは儘ならず、課題も多いと思っております。今後も、更なる支援体制の充実を図り、時代のニーズに応えられるよう努めてまいります。

また、名古屋市では、社会福祉法に基づき、令和４年度に「重層的支援体制整備事業実施計画」を策定し、支援を必要とする人を誰一人取り残さない地域共生社会の実現を目指しております。個人や世帯の抱える複雑化・複合的な生活課題等への包括的な相談支援体制を、令和 ４ 年度 ４ 区で包括的相談支援チームを配置し試行実施いたしました。複雑化・複合的な生活課題の中には、ひきこもりも課題のひとつとなります。包括的な支援には、相談支援機関の相互連携が必須のため、令和 ６ 年度の本格実施に向け連携強化に努めてまいります。

これからも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年９月

名古屋市精神保健福祉センター所長
宇佐美　寿江

# 目　　次

## 第１章


基本理念、愛称公募・選定、沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
答申・報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
予算・決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23


## 第２章


企画立案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
技術援助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
人材育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40
調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44
精神保健福祉相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
組織育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
自殺対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
うつ病の方を対象とした就労支援関連事業・・・・・・・・・・・・・・・・　60
精神医療審査会の事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　62
精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の判定・・・　65
依存症対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　71
ひきこもり地域支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　82

## *第1章*

基本理念

愛称公募・選定

沿革

答申・報告

施設

組織

予算・決算

## 基本理念

平成15年7月に「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定した。

名古屋市精神保健福祉センター基本理念

名古屋市精神保健福祉センターは、市民の精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図ること、並びにライフスタイルのあらゆる段階に生じる精神保健福祉に関する問題の解決を、市民が相互に支援することができる、地域社会づくりを促進していくことを目指します。

## 愛称公募・選定

### 1　愛称公募

精神保健福祉センターがより広く市民に親しまれ、気軽に利用できるように、精神保健福祉センター内に愛称募集事務局を設置し、平成18年9月から平成18年12月まで市民への公募をおこなった。

### 2　愛称選定

平成19年2月27日に名古屋市精神保健福祉センター愛称選定委員会を開催し、40名57案の中から「ここらぼ」が選定された。「ここらぼ」とは、心とcollaborate（共同で仕事する、協力する）をかけ合せた造語であり、心の健康について、いろいろな人と一緒に取り組んでいけたらという思いを込めている。

## 沿革

### 1　略譜（詳細は本所報第1巻を参照）

| | |
|---|---|
| 平成5～7年度 | 名古屋市精神保健指導センターあおばの里基本調査 |
| 平成6年3月 | 名古屋市精神保健対策検討会設置 |
| 平成6年11月 | 名古屋市精神保健対策検討会提言「今後の精神保健対策について-大都市特例への対応を中心に-」において、本市の地域精神保健対策の拠点となる精神保健センターの整備の必要性が記載される。 |
| 平成6年11月 | 「名古屋市障害者福祉新長期計画」において、精神保健に関する総合的技術センターとして、地域精神保健活動推進の中核となる機能を備えたものを整備する必要性が記載される。 |
| 平成7年3月 | 名古屋市精神保健指導センターあおばの里での精神科デイケアを休診する。 |

平成7年度　名古屋市精神保健指導センターあおばの里の基本調査が精神保健センターの基本調査に変更
平成7年8月　精神科デイケア検討会を設置し、今後の精神科デイケアのあり方について検討を行う。
平成7年9月　「名古屋市第３次推進計画」において、平成7年～9年度に精神保健福祉センターの設置の検討が計画される。
平成8年3月　精神科デイケア検討会から「今後の名古屋市精神保健指導センターのデイケアについて」提言
平成8年度　基本設計
平成8年4月　名古屋市精神保健指導センターあおばの里を当面の間、休止とする。
平成8年4月　名古屋市精神保健福祉審議会設置。審議会に名古屋市における地域精神保健福祉施策について諮問
平成8年12月　審議会から「名古屋市の精神保健福祉センターについて－都市型の地域精神保健福祉施策の推進について-」答申。３つの基本的機能が求められるとともに、基本的考え方が示される。
平成9年3月　精神保健福祉センター業務検討会設置
平成9年度　実施設計
平成9年8月　精神保健福祉センター業務検討会報告。本市の精神保健福祉センターが志向すべき基本姿勢が示されるとともに、具体的に精神保健福祉センター業務がまとめられる。
平成10年7月　名古屋市精神保健指導センターあおばの里等解体工事開始
平成10年12月25日　起工式
平成10年12月　建築工事（～平成12月11月工事期間24か月）
平成11年11月　わかばの里デイケア評価検討会設置
平成12年3月　名古屋市精神保健福祉センター条例公布
平成12年3月　わかばの里デイケア評価検討会報告。公設デイケアについてパイロット的デイケア等のコンセプトが示される。
平成12年4月　健康福祉局障害福祉部障害福祉課に精神保健福祉センター開設準備担当の主事2名を配置
平成12年11月17日　開所式（中村保健所等複合施設合同開所式）
平成12年12月1日　名古屋市精神保健福祉センター開所
平成13年3月　名古屋市精神保健指導センター条例廃止
平成13年4月　主事2名を増員。全面的な業務開始
平成14年4月　主事1名を増員。精神医療審査会及び精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）判定事務が移管される。
平成15年4月　主事1名を増員
平成15年7月　「名古屋市精神保健福祉センター基本理念」を制定
平成16年4月　精神医療審査会合議体を増（3合議体→4合議体）
平成18年9月　愛称の公募
平成19年2月　愛称「ここらぼ」の選定

| | |
|---|---|
| 平成19年4月 | ひきこもり施策及び自殺対策施策の事務開始 |
| 平成23年5月 | 精神保健福祉センター業務検討会設置 |
| 平成24年1月 | 精神保健福祉センター業務検討会報告。今後の精神保健福祉センターの業務のあり方がまとめられる。 |
| 平成24年4月 | 機構改革（管理係・支援係）。主事１名を減員。ひきこもり支援コーディネーター２名配置 |
| 平成24年5月 | ひきこもり地域支援センター開設 |
| 平成25年4月 | 精神医療審査会の退院等請求窓口が移管される。 |
| 平成29年4月 | 精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療（精神通院医療）担当の嘱託員1名配置 |
| 平成30年6月 | 依存症相談員として嘱託員2名配置 |
| 平成30年7月 | 依存症相談拠点として位置付け、専用電話設置及び依存症関連事業の拡充 |
| 令和2年4月 | 機構改革（管理係1係制）。副所長（管理係長事務取扱）、主査（支援）を配置<br>会計年度任用職員制度の導入に伴い、それまでの嘱託員にかわり、会計年度ひきこもり支援コーディネーター2名、会計年度依存症相談員2名、会計年度精神障害者保健福祉手帳等判定事務専門員2名（うち、1名は増員）を配置 |
| 令和3年4月 | 会計年度ひきこもり支援コーディネーター1名を増員 |
| 令和4年4月 | 会計年度依存症相談員を1名増員 |

## 2　開設後の年表

| | 平成12年度 | 平成13年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | センター開設（平成12年12月1日）<br>精神保健指導センター廃止(平成13年3月31日）<br>1係1主査10人体制 | <br><br>2人増員、2係12人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加→ | → |
| 技術援助 | 講師派遣 →<br>事例検討 → | →<br>→ |
| 人材育成 | <br><br><br><br>精神障害者小規模作業所指導員研修 →<br><br><br><br><br>関係機関等研修 | 新任精神保健福祉相談員研修 →<br>現任精神保健福祉相談員研修 →<br>精神障害者ケアマネジメント従事者養成研修<br>ケアマネジメントフォローアップ研修<br><br>精神障害者社会復帰施設等職員研修 →<br>薬物問題関係者研修会 →<br>精神障害者ホームヘルプサービス講習会 →<br>こころの健康電話相談員研修 →<br>精神保健福祉援助実習(学生実習) → |
| 普及啓発 | 心の健康講演会 →<br>市民向情報誌「シャチ・ほっと」 →<br>関係者向情報誌「シャチだより」 →<br>ホームページ開設・運営 → | →<br>→<br>→<br>ホームページ運営 →<br>精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 → |
| 調査研究 | | 精神障害者の就労に関する調査 → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週）→<br>思春期の精神保健相談（1/週）→<br><br><br>高齢期心の健康相談（2/月）→<br>薬物リハビリテーション相談（1/週）→<br>こころの健康電話相談 → | →<br>→<br>思春期家族教室 →<br>思春期親の会 →<br>→<br>→<br>→ |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 →<br>愛知デイ・ケア実施施設交流会 →<br><br><br><br>精神障害者家族会リーダー研修 → | →<br>→<br>精神保健福祉市民活動セミナー →<br>セミナーフォローアップ事業 →<br>ひきこもる若者たちへの支援事業 →<br>→ |
| 精神科デイケア | わかばの里「生活自立コース」終了<br>わかばの里「就労援助コース」終了 | <br>就労支援コース → |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会）→<br><br><br><br>内覧会<br>「利用案内」作成 | →<br>交流事業（バスハイキング）→<br>精神障害者家族交流大会 → |

| | 平成14年度 | 平成15年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 1人増員、13人体制<br>精神医療審査会事務、公費負担・手帳の判定の移管 | 1人増員、14人体制<br>基本理念制定 |
| 企画立案 | 関係会議参加 | |
| 技術援助 | 講師派遣<br>事例検討 | |
| 人材育成 | 新任精神保健福祉相談員研修<br>現任精神保健福祉相談員研修<br>精神保健福祉関係者研修<br>精神障害者小規模作業所指導員研修<br>精神障害者社会復帰施設等職員研修<br>思春期精神保健関係者研修<br>薬物問題関係者研修会<br>精神障害者ケアマネジメント研修<br>精神障害者ホームヘルプサービス講習会<br>ホームヘルパーフォローアップ研修<br>こころの健康電話相談員研修<br>精神保健福祉援助実習(学生実習) | |
| 普及啓発 | 心の健康講演会<br>市民向情報誌「シャチ・ほっと」<br>関係者向情報誌「シャチだより」<br>ホームページ運営<br>精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」<br>心の健康サマーセミナー | 心の健康モニター |
| 調査研究 | 精神障害者の就労に関する調査<br>ひきこもりに関する調査 | |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週）<br>思春期の精神保健相談（1/週）<br>思春期家族教室<br>ひきこもりを考える家族の集い<br>ふくろう倶楽部<br>高齢期心の健康相談（2/月）<br>薬物リハビリテーション相談（1/週）<br>薬物家族の会<br>こころの健康電話相談 | |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会<br>愛知デイ・ケア実施施設交流会<br>精神保健福祉市民活動セミナー<br>セミナーフォローアップ事業<br>ひきこもる若者たちへの支援事業<br>精神障害者家族会リーダー研修<br>薬物問題関係機関連絡会議 | |
| 精神科デイケア | 就労準備コース<br>精神障害者の就労準備に関する研修 | |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会）<br>交流事業（バスハイキング）<br>精神障害者家族交流大会 | |
| 精神医療審査会 | 事務の移管・実施 | 事務の実施 |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の移管・実施 | 判定の実施 |

| | 平成16年度 | 平成17年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 14人体制 | 14人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 | |
| 技術援助 | 講師派遣 | |
| | 事例検討 | |
| 人材育成 | 新任精神保健福祉相談員研修 | |
| | 現任精神保健福祉相談員研修 | |
| | 精神保健福祉関係者研修 | |
| | 精神障害者小規模作業所指導員研修 | |
| | 精神障害者社会復帰施設等職員研修 | |
| | 思春期精神保健関係者研修 | |
| | | 薬物問題関係者研修会 |
| | 精神障害者ホームヘルプサービス講習会 | |
| | ホームヘルパーフォローアップ研修 | |
| | こころの健康電話相談員研修 | |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) | |
| | | 臨床医師研修 |
| 普及啓発 | 心の健康講演会 | |
| | 市民向情報誌「シャチ・ほっと」 | |
| | 関係者向情報誌「シャチだより」 | |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 | |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 | |
| | ホームページ運営 | |
| | 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 | |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 | |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） | |
| | 思春期の精神保健相談（1/週） | |
| | ひきこもりを考える家族の集い | |
| | ふくろう倶楽部 | |
| | 高齢期心の健康相談（2/月） | |
| | 薬物リハビリテーション相談（1/週） | |
| | 薬物家族の会 | |
| | こころの健康電話相談 | |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 | |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 | |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー | |
| | セミナーフォローアップ事業 | |
| | ひきこもる若者たちへの支援事業 | |
| | 精神障害者家族会リーダー研修 | |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 | |
| 精神科デイケア | 就労チャレンジコース | |
| | 精神障害者の就労準備に関する研修 | |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会） | |
| | 交流事業（ハートウォーミングコンサート） | |
| | 精神障害者家族交流大会 | |
| 精神医療審査会 | 事務の実施（合議体数の増3⇒4） | |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 | |

| | 平成18年度 | 平成19年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 14人体制<br>愛称公募・選定 | 14 人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → | → |
| 技術援助 | 講師派遣 → | → |
| | 事例検討 → | → |
| 人材育成 | 新任精神保健福祉相談員研修 → | → |
| | 現任精神保健福祉相談員研修 → | → |
| | 精神保健福祉関係者研修 → | → |
| | 精神障害者小規模作業所指導員研修 → | 精神障害のある方を支援対象としている障害福 |
| | 精神障害者社会復帰施設等職員研修 → | 祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職 |
| | | 員研修 → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → | → |
| | 薬物問題関係者研修会 → | → |
| | こころの健康電話相談員研修 → | → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → | → |
| | 臨床医師研修 → | → |
| 普及啓発 | 心の健康講演会 → | → |
| | 市民向情報誌「シャチ・ほっと」 → | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → |
| | 関係者向情報誌「シャチだより」 → | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → | → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → | → |
| | ホームページ運営 → | → |
| | 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 → | → |
| | | ひきこもり講演会 → |
| | | ひきこもりガイドマップ → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → | → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） → | → |
| | 思春期の精神保健相談（1/週） → | 思春期の精神保健相談（3/月） → |
| | ひきこもりを考える家族の集い → | → |
| | ふくろう倶楽部 → | |
| | 高齢期心の健康相談（2/月） → | → |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） → | → |
| | 薬物家族の会 → | → |
| | こころの健康電話相談 → | → |
| | | ひきこもり相談（1/月） → |
| | | 自死遺族相談（1/月） → |
| | | うつ病家族教室 → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → | → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → | → |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー → | → |
| | セミナーフォローアップ事業 → | → |
| | 精神障害者家族会リーダー研修 → | → |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → | → |
| | | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → |
| 精神科デイケア | 就労チャレンジコース → | → |
| | 精神障害者の就労準備に関する研修 → | → |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会） → | → |
| | 交流事業（ハートウォーミングコンサート） → | → |
| | 精神障害者家族交流大会 → | → |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → | → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → | → |

| | 平成20年度 | 平成21年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 14人体制 | 14 人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 | |
| 技術援助 | 講師派遣 | |
| | 事例検討 | |
| 人材育成 | 新任精神保健福祉相談員研修 | |
| | 現任精神保健福祉相談員研修 | |
| | 精神保健福祉関係者研修 | |
| | 精神障害のある方を支援対象としている障害福祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職員研修 | |
| | 思春期精神保健関係者研修 | |
| | 薬物問題関係者研修会 | |
| | こころの健康電話相談員研修 | |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) | |
| | 臨床医師研修 | |
| 普及啓発 | 心の健康講演会 | |
| | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 | |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 | |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 | |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 | |
| | ホームページ運営 | |
| | 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 | |
| | ひきこもり講演会 | |
| | ひきこもり支援ガイドマップ | |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 | |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） | |
| | 思春期の精神保健相談（3/月） | |
| | ひきこもりを考える家族の集い | |
| | 高齢期心の健康相談（2/月） | |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） | |
| | 薬物家族の会 | |
| | こころの健康電話相談 | |
| | ひきこもり相談（1/月） | |
| | 自死遺族相談（1/月） | |
| | うつ病家族教室 | |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 | |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 | |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー | |
| | セミナーフォローアップ事業 | |
| | 精神障害者家族会リーダー研修 | |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 | |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 | |
| 精神科デイケア | うつ病ワークデザインコース | |
| | 精神障害者の就労準備に関する研修 | |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会） | |
| | 交流事業（ハートウォーミングコンサート） | |
| | 精神障害者家族交流大会 | |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 | |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 | |

| | 平成22年度 | 平成23年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 14人体制 | 14 人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → | → |
| | | 精神保健福祉センター業務検討会 |
| 技術援助 | 講師派遣 → | → |
| | 事例検討 → | → |
| 人材育成 | 新任精神保健福祉相談員研修 → | 精神保健福祉関係職員研修 → |
| | 現任精神保健福祉相談員研修 → | |
| | 精神保健福祉関係者研修 → | |
| | 精神障害のある方を支援対象としている障害福祉サービス事業者及び地域生活支援事業者等職員研修 → | → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → | → |
| | 薬物問題関係者研修会 → | → |
| | こころの健康電話相談員研修 → | → |
| | ひきこもり支援セミナー → | → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → | → |
| | 臨床医師研修 → | → |
| 普及啓発 | 心の健康講演会 → | → |
| | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → | → |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → | → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → | → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → | → |
| | ホームページ運営 → | → |
| | 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 → | → |
| | ひきこもり支援ガイドマップ → | → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → | → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） → | → |
| | 思春期の精神保健相談（3/月） → | → |
| | ひきこもりを考える家族の集い → | → |
| | 高齢期心の健康相談（2/月） → | → |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） → | → |
| | 薬物家族の会 → | → |
| | こころの健康電話相談 → | → |
| | ひきこもり相談（1/月） → | → |
| | 自死遺族相談（1/月） → | → |
| | うつ病家族教室 → | → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → | → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → | → |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー → | → |
| | セミナーフォローアップ事業 → | → |
| | 精神障害者家族会リーダー研修 | ボランティア活用術講座 |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → | → |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → | → |
| 精神科デイケア | うつ病ワークデザインコース | うつ病ワークステップコース |
| | うつ病就労支援研修 → | → |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会） → | → |
| | 交流事業（ハートウォーミングコンサート） → | → |
| | 精神障害者家族交流大会 → | → |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → | → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → | → |

| | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 機構改革<br>1人減員、2係1主査13人体制 | 13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → | → |
| 技術援助 | 講師派遣 → | → |
| | 事例検討 → | → |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 → | → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → | → |
| | 薬物問題関係者研修会 → | → |
| | こころの健康電話相談員研修 → | → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → | → |
| | 臨床医師研修 → | → |
| 普及啓発 | こころの健康フェスタなごや（障害企画課） | |
| | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → | → |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → | → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → | → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → | → |
| | ホームページ運営 → | → |
| | 精神保健福祉ガイドブック「ハートウォーミング」 → | → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → | → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） → | → |
| | 思春期の精神保健相談（3/月） → | → |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） → | → |
| | こころの健康電話相談 → | → |
| | 自死遺族相談（1/月） → | → |
| | うつ病家族教室 → | → |
| | | アルコール家族教室 → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → | → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → | → |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー → | → |
| | セミナーフォローアップ事業 → | → |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → | → |
| | アディクション・セッション → | → |
| ひきこもり地域支援センター | ひきこもり支援コーディネート嘱託員2名配置 | |
| | 開設・運営 → | 運営 → |
| | ひきこもり支援セミナー → | → |
| | ひきこもり支援ガイドマップ → | → |
| | ひきこもりを考える家族の集い → | → |
| | ひきこもり相談 → | → |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → | → |
| リワーク支援プログラム | 開始・運営 → | 運営 → |
| | うつ病就労支援研修 → | → |
| 地域の実情に応じた事業 | 交流事業（卓球大会） → | こころの健康フェスタなごや → |
| | 交流事業（ハートウォーミングコンサート） → | |
| | 精神障害者家族交流大会 → | |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → | → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → | → |

| | 平成26年度 | 平成27年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 13人体制 | 13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → | → |
| 技術援助 | 講師派遣 → | → |
| | 事例検討 → | → |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 → | → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → | → |
| | 薬物問題関係者研修会 → | → |
| | こころの健康電話相談員研修 → | → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → | → |
| | 臨床医師研修 → | → |
| | 地域移行･地域定着支援推進研修 → | → |
| | | アルコール問題関係者研修 → |
| | | 見守り支援員研修 |
| 普及啓発 | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → | → |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → | → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → | → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → | → |
| | ホームページ運営 → | → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → | → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） → | → |
| | 思春期の精神保健相談（3/月） → | → |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） → | → |
| | こころの健康電話相談 → | → |
| | 自死遺族相談（1/月） → | → |
| | うつ病家族教室 → | → |
| | アルコール家族教室 → | アルコール教室 → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → | → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → | → |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー → | → |
| | セミナーフォローアップ事業 → | → |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → | → |
| | アディクション・セッション → | → |
| ひきこもり地域支援センター | 運営 → | → |
| | ひきこもり支援セミナー → | → |
| | ひきこもり支援ガイドマップ → | → |
| | 家族向けパンフレット → | → |
| | センター周知用カード設置 → | → |
| | ひきこもりを考える家族の集い → | → |
| | ひきこもり相談 → | → |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → | → |
| | | ひきこもり講演会 → |
| リワーク支援プログラム | 運営 → | → |
| | うつ病就労支援研修 → | → |
| | | 認知行動療法普及研修 → |
| 地域の実情に応じた事業 | こころの健康フェスタなごや → | → |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → | → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → | → |

| | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 13人体制 | 13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → | → |
| 技術援助 | 講師派遣 → | → |
| | 事例検討 → | → |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 → | → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → | → |
| | 薬物問題関係者研修会 → | → |
| | こころの健康電話相談員研修 → | → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → | → |
| | 臨床医師研修 → | → |
| | 地域移行･地域定着支援推進研修 → | → |
| | アルコール問題関係者研修 → | ピアサポーター養成研修 → |
| | | 災害時精神医療活動研修 → |
| 普及啓発 | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → | → |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → | → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → | → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → | → |
| | ホームページ運営 → | → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → | → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） → | → |
| | 思春期の精神保健相談（4/月） → | → |
| | 薬物リハビリテーション相談（3/月） → | → |
| | こころの健康電話相談 → | → |
| | 自死遺族相談（1/月） → | → |
| | うつ病家族教室 → | → |
| | アルコール教室 → | → |
| | | 依存症家族のつどい → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → | → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → | → |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー → | → |
| | セミナーフォローアップ事業 → | → |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → | → |
| | アディクション・セッション → | → |
| | | 依存症医療機関連絡会議 → |
| ひきこもり地域支援センター | 運営 → | → |
| | ひきこもり支援セミナー → | → |
| | ひきこもり支援ガイドマップ → | → |
| | 家族向けパンフレット → | → |
| | センター周知用カード設置 → | → |
| | ひきこもりを考える家族のつどい → | → |
| | ひきこもり相談 → | → |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → | → |
| | ひきこもり講演会 → | → |
| | ひきこもり家族教室 → | → |
| | ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣 → | → |
| | | ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修 → |
| リワーク支援プログラム | 運営 → | → |
| | うつ病就労支援研修 → | → |
| | 認知行動療法普及研修 → | → |
| 地域の実情に応じた事業 | こころの健康フェスタなごや → | → |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → | → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → | → |

| | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 13人体制 | 13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 | |
| 技術援助 | 講師派遣 | |
| | 事例検討 | |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 | |
| | 思春期精神保健関係者研修 | |
| | こころの健康電話相談員研修 | |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) | |
| | 臨床医師研修 | |
| | 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修 | （一部中止）※ |
| | ピアサポーター養成研修 | |
| | 災害時精神医療活動研修 | |
| 普及啓発 | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 | |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 | |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 | |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 | |
| | ホームページ運営 | |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 | |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談（2/週） | |
| | 思春期の精神保健相談（4/月） | |
| | こころの健康電話相談 | |
| | 自死遺族相談（1/月） | |
| | うつ病家族教室 | |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 | |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 | |
| | 精神保健福祉市民活動セミナー | |
| | セミナーフォローアップ事業 | |
| 依存症対策 | 依存症相談（5/月） | |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 | |
| | アルコール問題関係者研修 | |
| | 薬物問題関係者研修会 | （中止）※ |
| | ギャンブル問題関係者研修 | |
| | 依存症医療機関連絡会議 | |
| | 依存症講演会 | （台風19号接近により中止） |
| | アディクション・セッション | |
| | 依存症教室（アルコール・薬物教室） | |
| | 依存症家族のつどい | |
| | | NAT-G |
| | | 司法書士による債務等相談会 |
| ひきこもり地域支援センター | 運営 | |
| | ひきこもり支援セミナー | |
| | ひきこもり支援ガイドマップ | |
| | 家族向けパンフレット | |
| | ひきこもりを考える家族のつどい | |
| | ひきこもり相談 | |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 | |
| | ひきこもり講演会 | |
| | ひきこもり家族教室 | |
| | ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣 | |
| | ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修 | |
| リワーク支援プログラム | 運営 | |
| | うつ病就労支援研修 | （中止）※ |
| | 認知行動療法普及研修 | |
| 地域の実情に応じた事業 | こころの健康フェスタなごや | （中止）※ |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 | |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 | |

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため

| | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---|---|---|
| 体　制 | 機構改革　1係2主査13人体制 | 1係2主査13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 | |
| 技術援助 | 講師派遣 | |
| | 事例検討 | |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 | |
| | 思春期精神保健関係者研修 | |
| | こころの健康電話相談員研修 | |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) | |
| | 臨床医師研修 | |
| | 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修(中止)※ | 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修 |
| | ピアサポーター養成研修 | |
| | 災害時精神医療活動研修 | |
| 普及啓発 | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 | |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 | |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 | |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 | |
| | ホームページ運営 | |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 | |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談 | |
| | 思春期の精神保健相談（4/月） | |
| | こころの健康電話相談 | |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 | |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会(一部中止)※ | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 |
| 依存症対策 | 依存症相談（5/月） | |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 | |
| | 依存症基礎講座 | |
| | ギャンブル問題関係者研修 | |
| | アルコール問題ネットワーク会議 | |
| | 依存症講演会 | |
| | アディクション・セッション(中止)※ | アディクション・セッション |
| | 依存症家族教室 | |
| | 依存症家族のつどい | |
| | NAT-G | |
| | 司法書士による債務等相談会 | |
| ひきこもり地域支援センター | 運営 | |
| | ひきこもり支援セミナー | |
| | ひきこもり支援ガイドマップ | |
| | 家族向けパンフレット | |
| | ひきこもりを考える家族のつどい(一部中止)※ | ひきこもりを考える家族のつどい |
| | ひきこもり相談 | |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 | |
| | ひきこもり講演会 | |
| | ひきこもり家族教室 | |
| | ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣(一部中止)※ | ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣 |
| | ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修(中止)※ | ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修 |
| うつ病就労支援 | 普及啓発 | |
| | うつ病就労支援研修(中止)※ | うつ病就労支援研修 |
| | 認知行動療法普及研修 | |
| 自殺対策 | 自死遺族相談（1/月） | |
| | こころの健康フェスタなごや | |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 | |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 | |

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため

| | 令和4年度 |
|---|---|
| 体　制 | 1係2主査13人体制 |
| 企画立案 | 関係会議参加 → |
| 技術援助 | 講師派遣 → |
| | 事例検討 → |
| 人材育成 | 精神保健福祉関係職員研修 → |
| | 思春期精神保健関係者研修 → |
| | こころの健康電話相談員研修 → |
| | 精神保健福祉援助実習(学生実習) → |
| | 臨床医師研修 → |
| | 精神障害にも対応した → |
| | 地域包括ケアシステム構築推進研修 |
| | ピアサポーター養成研修 → |
| | 災害時精神医療活動研修 → |
| 普及啓発 | 情報誌「ここらぼNAGOYA」 → |
| | 情報誌「ここらぼリーフレット」 → |
| | 精神保健福祉に関するパンフレットの発行 → |
| | 思春期精神保健リーフレットの発行 → |
| | ホームページ運営 → |
| 調査研究 | 特定の課題に関する調査 → |
| 精神保健福祉相談 | 精神保健福祉相談 → |
| | 思春期の精神保健相談（4/月） → |
| | こころの健康電話相談 → |
| 組織育成 | 愛知県精神保健福祉協会 → |
| | 愛知デイ・ケア実施施設交流会 → |
| 依存症対策 | 依存症相談（5/月） → |
| | 薬物問題関係機関連絡会議 → |
| | 依存症基礎講座 → |
| | ギャンブル問題関係者研修 → |
| | アルコール問題関係者連絡協議会(名称変更) → |
| | 依存症講演会 → |
| | アディクション・セッション → |
| | 依存症家族教室 → |
| | 依存症家族のつどい → |
| | NAT-G → |
| | 司法書士による債務等相談会 → |
| ひきこもり地域支援センター | 運営 → |
| | ひきこもり支援セミナー → |
| | ひきこもり支援ガイドマップ → |
| | 家族向けパンフレット → |
| | ひきこもりを考える家族のつどい → |
| | ひきこもり相談 → |
| | ひきこもり支援関係団体連絡会議 → |
| | ひきこもり講演会 → |
| | ひきこもり家族教室 → |
| | ひきこもり支援サポーター養成研修及び派遣 → |
| | ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修 → |
| うつ病就労支援 | 普及啓発 → |
| | うつ病就労支援研修 → |
| | 認知行動療法普及研修 → |
| 自殺対策 | 自死遺族相談（1/月） → |
| | こころの健康フェスタなごや → |
| 精神医療審査会 | 事務の実施 → |
| 公費負担・手帳の判定 | 判定の実施 → |

# 答申・報告

## 1　名古屋市精神保健福祉審議会答申（平成8年12月）

「名古屋市の精神保健福祉センターについて－都市型の地域精神保健福祉施策の推進について-」

（1）名古屋市の精神保健福祉センターの３つの基本的機能

| | |
|---|---|
| 企画調整機能 | 市域全体を見渡す広い視野を持ちつつ、県の精神保健福祉センターや関係諸領域との連携・協力に主体的に取り組む企画調整機能が必要 |
| 情報センター機能 | 市内外の精神保健福祉情報の収集・調査といった精神保健福祉に関する様々な情報の収集及び提供といった情報センター機能が必要 |
| 診療及び高次の相談機能 | 第一線の相談機関を支えていくために、高い技術力を持った相談機能が必要 |

（2）名古屋市の精神保健福祉センターの基本的考え方

| | |
|---|---|
| 目的 | 精神保健福祉センターは、センターの業務を通じて、市民が、都市の特徴である個人を基調とした社会において、ライフサイクルのあらゆるステージに生じる精神保健福祉に関する問題の解決を相互に支援する能力を有する地域社会づくりを職域や学域を含めて促進していくことを目的とする。 |
| 保健所との関係 | 精神保健福祉センターは、名古屋市内で活動する機関（保健所を含む）、組織、団体、施設に対する技術援助等を主たる業務とし、直接対人サービスについては保健所で対応することを基本とする。<br>しかし、時間外や複雑困難事例においては、保健所機能を補完するという範囲で直接センターが対応する。<br>また、精神保健福祉センターは、必要に応じて地域や関係機関と連携を図りつつ、精神保健福祉に関する新たな課題に先駆的に取り組み、蓄積した技術や経験を保健所に敷衍する。<br>さらに、外国人の精神保健福祉や精神障害者の権利擁護の問題、あるいは災害時のメンタルヘルスケアやいじめなど、保健所では対応困難な課題に対しては精神保健福祉センターが中心となって対応する。 |
| デイケアの実施 | 現在、名古屋市は精神保健指導センターでデイケアを実施しているが、厚生省保健医療局長通知「精神保健福祉センター運営要領」（「センターは、診察機能や、デイケア、社会復帰施設等のリハビリテーション機能を持つことが望ましい。」）にのっとり、精神保健指導センターを精神保健福祉センターのデイケア部門として位置付けて、業務を引き継ぐ。 |

## 2　精神保健福祉センター業務検討会報告（平成9年8月）

名古屋市の精神保健福祉センターが常に志向すべき３つの基本姿勢

| | |
|---|---|
| ネットワークづくり | 地域における精神保健福祉に関する活動は、地域住民の精神的健康の保持増進、精神障害の予防、適切な精神医療の推進から、社会復帰の促進、自立と社会経済活動への参加の促進のための援助に至るまで広範囲にわたっており、関係する機関、施設等も多種多様である。そのため、効率的かつ効果的にサービスを供給するには、調整能力を持ったネットワークが必要となる。精神保健福祉センターは、要領に「地域精神保健福祉活動推進の中核となる機能を備えなければならない。」と規定されていることから、本市のセンターは、常に関係機関等との連携、共働を念頭に置いた事業展開を図るとともに、ネットワークづくりを主体的に担っていくべきである。 |
| 先駆的な事業の計画的な展開 | 本市の精神保健福祉センターは、ネットワークを通して、地域における精神保健福祉に関するニーズや課題を包括的に把握しうる位置にある。また、精神保健福祉センターは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する総合的技術センター」と要領に規定されている。この２点から、本市センターはネットワークを通じて地域のニーズや課題を的確に把握し、それに対応するための短中期的な事業計画を策定し、先駆的なモデル事業を３年から５年程度の時限で実施する。そして、その事業の成果は関係諸機関に積極的に普及、還元していくものとする。このようにして、センター自身は常に先駆的な事業に取り組んでいく。 |
| 市民に開かれた精神保健福祉センター | 精神保健福祉センターは、精神保健福祉に関する関係諸機関を対象に業務を実施するとともに、市民を直接対象にする業務をも併せ持つ。このため、市民参加型の事業や、市民が利用しやすい情報提供の方策等を追求し、市民に開かれた、わかりやすいセンターにしていく必要がある。また、精神保健福祉センターの名称（愛称）についても、親しみやすくするよう配慮が必要である。 |

## 3　精神保健福祉センター業務検討会報告（平成24年1月）

(1) ３つの基本的な方向性

| | |
|---|---|
| 精神医療審査会及び手帳等判定などの専門業務の強化 | 増加する審査件数や判定件数に適切かつ迅速に対応できるよう、専門業務としての独立性・効率性を強化した体制を確保する。 |
| 人材育成及び地域づくりの促進 | 地域精神保健福祉に携わる人材を育成するとともに、関係機関等との連携、協同を念頭に置いた事業を展開し、ネットワークづくりを主体的に担い、地域社会づくりを促進する |
| 地域に出かけ第一線機関を後方支援する体制の構築 | 複雑困難事例について、第一線の相談機関を支えていくために、後方支援機関として、より専門的かつ高い技術力をもって、地域へ出かけ支援する体制を構築する。 |

※上記と併せて、「３つの基本的機能」（審議会答申）の更なる推進を図る。

(2) 基本的な方向性を具体化するための方策

| | |
|---|---|
| 業務の見直し及び事務の効率化 | ・限られたマンパワーを有効活用するために、他施策や民間事業等の類似事業や、ニーズの薄まった事業を廃止・統合。<br>・事務事業への嘱託職員を登用及び外部への事業委託。 |
| 精神科デイケアの発展的移行・先進事業の試行 | ・民間事業と類似する「精神科デイケア」については、「集団精神療法」、「集団認知行動療法」等のより先駆的な診療業務への移行を検討。 |
| 組織体制の再編 | ・本庁所管課との業務分担を機能面・効率性の観点から再検証し、センターの組織を再編。本庁組織体制も併せて検討。<br>・新たなニーズへの対応として、センター内にこころの健康対応を重視した「ひきこもり地域支援センター」の設置を検討。 |
| センター業務の重責に見合った人材の配置 | ・地域精神保健福祉の中核的技術機関として、専門性を発揮するとともに、第一線の相談機関を後方支援する組織として、その職務の重責に見合った人材を配置するとともに、ＯＢ職員に限らず経験豊かな人材（嘱託員など）を登用。 |

## 4　精神保健福祉業務実施体制検討会報告（平成31年3月）

(1)検討の趣旨

平成 30 年度より第 5 期障害福祉計画に基づき、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み」を実施する中、平成 30 年度より 1 保健所 1 6保健所支所体制に移行し、さらには平成 32 年度の障害福祉窓口の一元化の方向性が示されている状況を踏まえ、保健センターにおける本市の精神保健福祉に関する業務のあり方及び実施体制について、改めて整理検討を行った。

(2)地域精神保健活動の基本的な方向性

| 方向性 | 具体的な取り組み |
|---|---|
| 地域住民の近くで第一線の相談機関としての相談業務 | ・多職種協同による、未受診者・治療中断者等、必要な支援が届いていないケースに対する保健型アウトリーチを中心とした支援<br>・精神科救急事案へのファーストコンタクトとしての支援及び継続的なフォローアップ等 |
| 地域の社会資源とネットワークの構築 | ・精神保健福祉関係者及び地域住民との「顔の見える」関係づくり<br>・保健・医療・福祉関係者とのネットワークの構築等 |

| | |
|---|---|
| 人材育成・事業者育成 | ・精神障害者支援の質を確保するための、保健医療福祉関係者の育成等 |
| 普及啓発 | ・メンタルヘルス全般の早期発見と介入ができるよう、こころの健康や精神障害に関する啓発<br>・地域住民に対する精神障害者への理解促進のための普及啓発　等 |

(3)方向性を具現化するための必要な仕組みと方策

| 仕組みと方策 | 具体的な取り組み |
|---|---|
| 相談員と保健師が協同する仕組み | ・精神保健やケースに関する協議の場の設置<br>・こころの健康相談日や家族教室等の保健センター事業の協同実施等 |
| 精神保健に関するライン体制の強化 | ・保健センター内における多職種チームによる協同体制の促進<br>・他部署や他機関など対外的な調整<br>・精神保健に携わる職員のキャリアラダーの形成等 |
| 保健センターをバックアップする体制（精神保健福祉センターの機能強化） | ・地域へ出かけて行き、保健センターへのライブスーパービジョン機能<br>・精神保健に関する研修等の人材育成に関するノウハウを提供する機能等 |

# 施設

## 1　場所

名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18
名楽福祉会館等複合施設5階

## 2　建物・面積

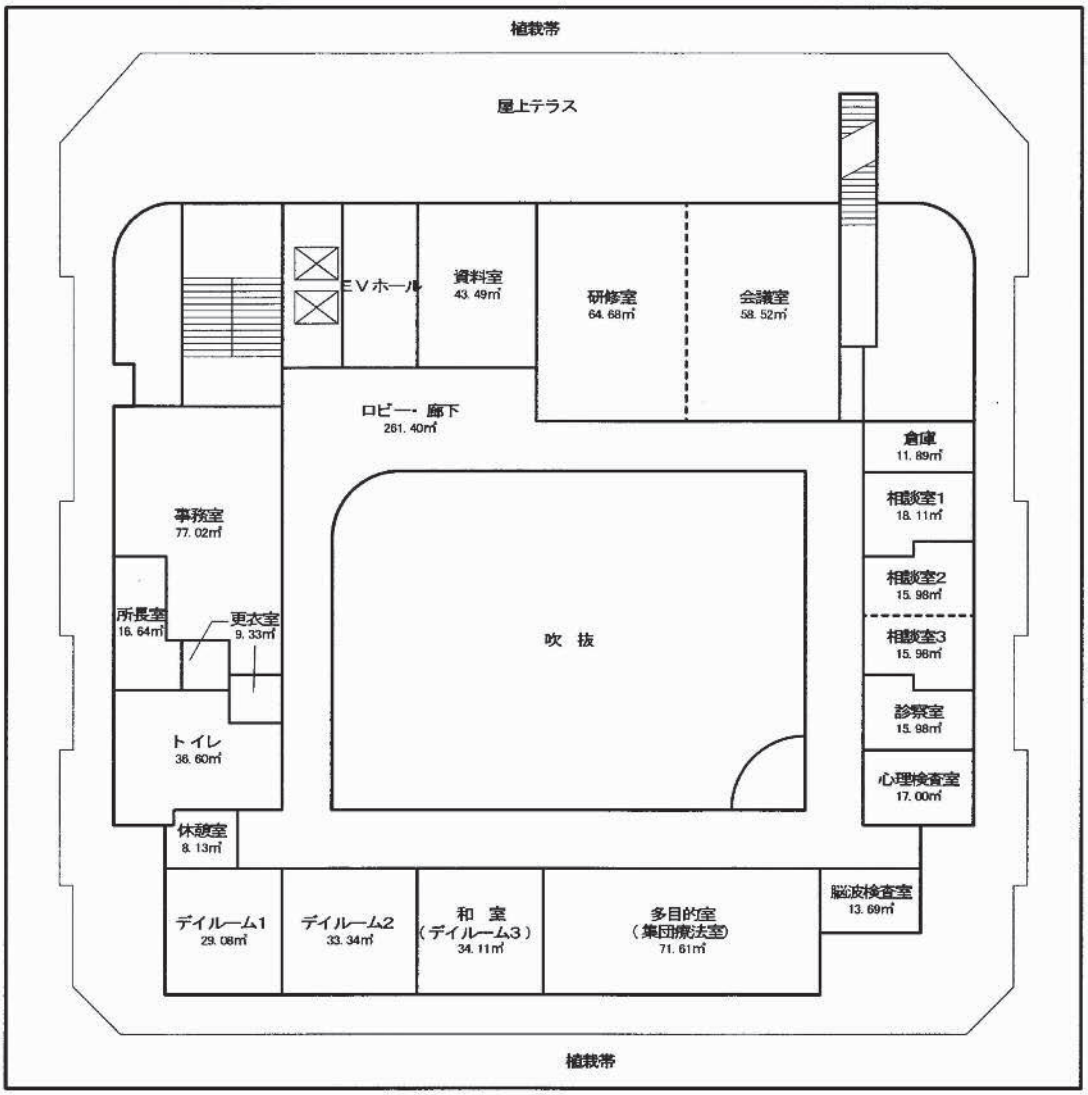
（1）構造
　　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地下１階・地上５階建

（2）面積

| 区分 | 面積 | 備考 |
|---|---|---|
| 名楽福祉会館等複合施設<br>敷地面積 | 5,539.06㎡ | |
| 建築面積 | 2,761.43㎡ | |
| 延床全体面積 | 10,026.52㎡ | |
| ５階面積 | 1,040.35㎡ | |
| 精神保健福祉センター面積 | 951.20㎡ | |
| 専用面積 | 852.58㎡ | 他施設との共用按分面積を除く |
| 部屋面積 | 591.18㎡ | ロビー、廊下を除く |
| 所長室 | 16.64㎡ | |
| 事務室 | 77.02㎡ | |
| 更衣室 | 9.33㎡ | |
| 診察室 | 15.98㎡ | |
| 相談室１ | 18.11㎡ | |
| 相談室２ | 15.98㎡ | |
| 相談室３ | 15.98㎡ | |
| 心理検査室 | 17.00㎡ | |
| 脳波検査室 | 13.69㎡ | |
| 資料室 | 43.49㎡ | |
| 研修室 | 64.68㎡ | |
| 会議室 | 58.52㎡ | |
| デイルーム１ | 29.08㎡ | |
| デイルーム２ | 33.34㎡ | |
| 和室（デイルーム３） | 34.11㎡ | |
| 多目的室（集団療法室） | 71.61㎡ | |
| 休憩室 | 8.13㎡ | |
| 便所 | 36.60㎡ | |
| 倉庫 | 11.89㎡ | |
| ロビー・廊下 | 261.40㎡ | |
| 機械室、EV,階段等 | 98.62㎡ | |

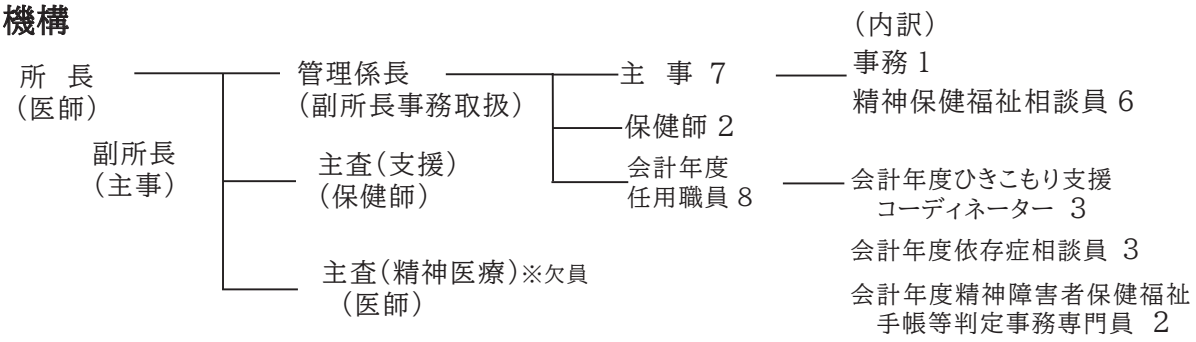
## 3　平面図

精神保健福祉センター平面図



# 組織（令和４年４月１日現在）

## 1　機構




## 2　職員構成

| 雇用形態 | 職　　種 | | 人数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 職　員 | 技術職員 | 医師 | 2名 | 所長、主査（欠員） |
| | 事務職員 | 主事（事務） | 2名 | 副所長含む |
| | | 主事（精神保健福祉相談員） | 6名 | |
| | 技術職員 | 保健師 | 3名 | 主査（支援）含む |
| | 小　計 | | 13名 | |
| 会計年度任用職員 | 会計年度ひきこもり支援コーディネーター | | 3名 | ひきこもり地域支援センター担当 |
| | 会計年度依存症相談員 | | 3名 | 依存症担当 |
| | 会計年度精神障害者保健福祉手帳等判定事務専門員 | | 2名 | 自立支援・手帳担当 |
| | 小　計 | | 8名 | |
| 合　計 | | | 20名 | |

## 3　附属機関委員

| 職　　種 | | 人数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 精神医療審査会 | 医療委員 | 16名 | 当センターが事務局を担当している本市の附属機関 |
| | 法律家委員 | 8名 | |
| | 有識者委員 | 8名 | |
| 合　計 | | 32名 | |

## 4　各種相談員・委員等

| 職　　種 | | 人数 |
|---|---|---|
| 特定相談員 | 医師 | 2名 |
| | 臨床心理士 | 2名 |
| | 精神保健福祉士 | 2名 |
| | 司法書士 | 1名 |
| | ピア相談員 | 3団体 |
| こころの健康電話相談員 | | 14名 |
| 精神障害者保健福祉手帳等判定委員 | | 12名 |
| 小計 | | 3団体、33名 |

## 予算・決算

令和４年度　精神保健福祉センター　予算・決算

### 1　精神保健福祉センターの運営

| 節 | 当初予算額 | 予算現額 | 決算額 |
|---|---|---|---|
| 報　酬 | 7,585,000 | 7,298,000 | 7,297,971 |
| 共済費（会計年度職員等） | 1,309,000 | 1,098,900 | 1,098,900 |
| 報償費 | 4,639,000 | 4,639,000 | 4,166,950 |
| 旅　費 | 916,000 | 916,000 | 317,443 |
| 需用費 | 2,463,000 | 3,687,000 | 3,632,793 |
| 役務費 | 1,127,000 | 1,127,000 | 1,014,131 |
| 委託料 | 4,176,000 | 3,546,800 | 3,546,329 |
| 使用料及び賃借料 | 2,022,000 | 2,022,000 | 1,675,971 |
| 工事請負費 | 213,000 | 2,830,000 | 2,829,819 |
| 備品購入費 | 451,000 | 2,326,200 | 2,396,172 |
| 負担金補助及び交付金 | 95,000 | 95,000 | 72,000 |
| 精神保健福祉センターの運営計 | 24,996,000 | 29,655,900 | 28,048,479 |

### 2　ひきこもり地域支援センター

| 節 | 当初予算額 | 予算現額 | 決算額 |
|---|---|---|---|
| 報　酬 | 8,961,000 | 8,662,000 | 8,621,966 |
| 共済費（会計年度職員等） | 1,542,000 | 1,294,400 | 1,294,400 |
| 報償費 | 937,000 | 937,000 | 462,400 |
| 旅　費 | 775,000 | 775,000 | 405,083 |
| 需用費 | 619,000 | 619,000 | 432,592 |
| 役務費 | 37,000 | 37,000 | 36,000 |
| 委託料 | 1,281,000 | 1,281,000 | 472,704 |
| 負担金補助及び交付金 | 5,000 | 5,000 | 4,000 |
| ひきこもり地域支援センター計 | 14,157,000 | 13,570,400 | 11,729,145 |

### 3　依存症対策事業

| 節 | 当初予算額 | 予算現額 | 決算額 |
|---|---|---|---|
| 報　酬 | 8,961,000 | 8,622,000 | 8,621,966 |
| 共済費（会計年度職員等） | 1,542,000 | 1,294,400 | 1,294,400 |
| 報償費 | 1,485,000 | 1,485,000 | 1,090,400 |
| 旅　費 | 817,000 | 817,000 | 359,263 |
| 需用費 | 327,000 | 327,000 | 262,620 |
| 役務費 | 162,000 | 162,000 | 95,710 |
| 委託料 | 2,114,000 | 2,114,000 | 1,338,424 |
| 負担金補助及び交付金 | 18,000 | 18,000 | 0 |
| 依存症対策事業<br>計 | 15,426,000 | 14,839,400 | 13,062,783 |

（※　精神保健福祉センター執行分）

### 4　その他の事業費

| 事業名 | 当初予算額 | 予算現額 | 決算額 |
|---|---|---|---|
| 医療審査会費 | 6,235,000 | 6,235,000 | 5,849,534 |
| 手帳等事務費 | 5,993,000 | 5,993,000 | 4,741,645 |
| 自殺対策事業 | 5,089,000 | 5,209,000 | 5,043,155 |
| 精神障害者ピアサポート<br>活用事業 | 260,000 | 260,000 | 73,980 |
| 支援技術普及研修<br>（認知行動療法） | 512,000 | 443,000 | 56,600 |
| 公衆衛生総務費<br>（医師研究費） | 210,000 | 210,000 | 66,052 |

（※　精神保健福祉センター執行分）

## *第２章*

企画立案

技術援助

人材育成

普及啓発

調査研究

精神保健福祉相談

組織育成

自殺対策

うつ病の方を対象とした就労支援関連事業

精神医療審査会の事務

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

依存症対策

ひきこもり地域支援センター

# 企画立案

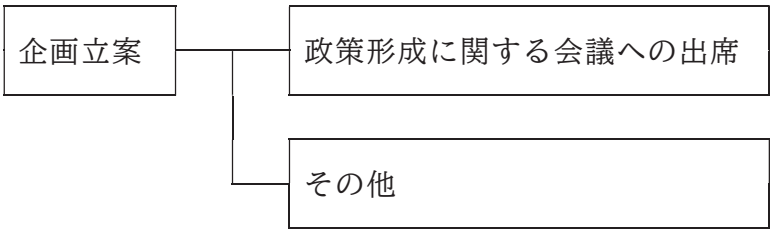
## 1　趣旨

地域精神保健福祉を推進するため、本市の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をする。

## 2　概況

令和４年度は、名古屋市障害者施策推進協議会をはじめとする各種会議へ職員を派遣し、本市の障害者福祉施策、精神保健福祉施策の検討に参画した。

## 3　体系




### 政策形成に関する会議への出席

※ 別途、P28-29「技術援助（会議等への出席）」に記載

# 技術援助

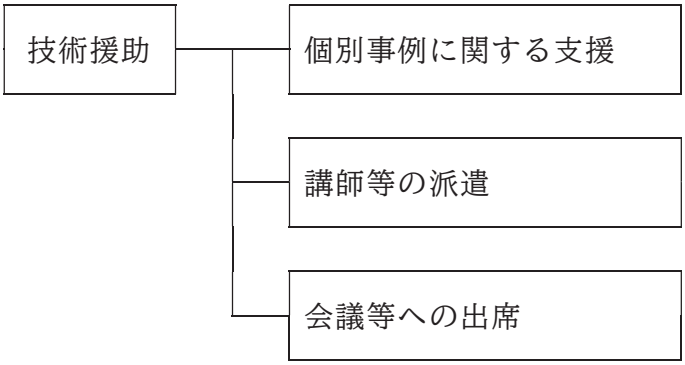
## 1　趣旨

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健センター及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

## 2　概況

令和４年度は、個別事例に関する支援や講師等の派遣、会議等への出席を行った。

## 3　体系




### 個別事例に関する支援

関係機関等に対して、個別事例や事業企画への助言等を行った。

| 区　分 | 高齢期 | 社会復帰 | アルコール | 薬物 | ギャンブル | ゲーム | 思春期 | こころの健康づくり | ひきこもり | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健ｾﾝﾀｰ | 4 | 28 | 7 | 6 | 1 | 1 | 5 | 9 | 0 | 8 | 69 |
| 区　役　所 | 0 | 19 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 9 | 36 |
| 福祉事務所 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 医療施設 | 0 | 29 | 8 | 4 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 4 | 50 |
| 障害者支援施設 | 0 | 50 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 59 |
| 社会福祉施設 | 3 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 7 | 8 | 9 | 42 |
| そ　の　他 | 0 | 33 | 3 | 8 | 0 | 1 | 9 | 11 | 1 | 4 | 70 |
| 計 | 7 | 173 | 21 | 20 | 3 | 3 | 19 | 36 | 13 | 35 | 330 |

## 講師等の派遣

関係機関の主催する事業等へ講師・助言者として職員を派遣した。

| 派遣事業・演題等 | 主催者 |
|---|---|
| 中川区自立支援協議会　事例検討会　「精神障害のある方への対応」 | 中川区自立支援協議会 |
| 熱田区役所・基幹相談支援センター合同勉強会　「精神疾患の理解とより良い支援に向けて」 | 熱田区役所 |
| 千種区東西合同ケアマネサロン勉強会　「アルコール依存症の方への関わり方～ケアマネージャとしてできること～」 | 千種区東部・西部いきいき支援センター |
| 日本睡眠学会第４７回定期学術集会シンポジウム３～ひきこもりの現状と概日睡眠リズム障害の関連性～　「名古屋市におけるひきこもりの現状」 | 日本睡眠学会 |
| 名古屋いのちの電話相談員期別研修　「電話相談と社会のネットワークの現状」 | 愛知いのちの電話協会 |
| 職場訪問体験学習　「精神保健福祉の分野で働くとは」 | 椙山女学園中学校 |
| 「精神保健福祉センター思春期相談事業・研修・普及啓発」 | 教育委員会子ども応援室 |
| 親愛の里学習会　「発達障害の有る方への支援のポイント」 | 中村区基幹相談支援センター |
| 「依存症への理解と今後の連携」 | 名古屋市男女平等参画推進センター |
| NPO 法人オレンジの会職員内部研修　「障害と医療～向精神薬について～」 | NPO 法人オレンジの会 B 型事業所 NOAH |
| 保護者勉強会　「ひきこもり地域支援センターについて、ひきこもりの理解と対応」 | なごや若者サポートステーション |
| 相談・事業所合同部会研修会①　「自死につながるケースへの対応と支援者のメンタルヘルス」 | 西区自立支援連絡協議会 |
| 相談・事業所合同部会研修会②　「精神保健福祉センターここらぼの役割と地域連携について」 | 西区自立支援連絡協議会 |
| 中村区自立支援協議会第 2 回子どもの支援を考える連絡会「名古屋市ひきこもり地域支援センターの具体的な支援の内容について」 | 中村区自立支援連絡協議会 |
| AA 中部北陸地区広報フォーラム　「名古屋市精神保健福祉センターここらぼ依存症相談窓口でのアルコール依存の相談と支援」 | AA 中部北陸セントラルオフィス |
| 依存症支援者研修　「名古屋市依存症相談窓口の取り組み～なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム NAT-G 実践報告」 | 依存症治療拠点西山クリニック |

| | |
|---|---|
| 総合学習（職場訪問インタビュー）　「～重圧に負けない心を育てるために～」 | 名古屋大学教育学部附属中学校 |
| 福祉コンシェルジュ研修　「精神保健福祉センター業務と相談へのつなぎ方」 | 健康福祉局総務課 |
| 引受人会　「名古屋市精神保健福祉センターでの家族支援」 | 名古屋保護観察所 |
| 生活保護法施行事務関係新任職員研修会（5）　「こころを病む人たちに対応するには」 | 健康福祉局生活福祉部 |
| 中村区いきいき支援センター職員勉強会　「ひきこもりの方を抱える家族への支援」 | 中村区北部いきいき支援センター |
| 東区保健主事・養護教諭等研修会　「ここらぼ事業と　『ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい』」 | 東区小・中学校保健主事会・養護教諭会 |
| SBIRTS普及研修　「名古屋市のアルコール健康障害対策」 | 愛知連合断酒会 |
| 第16回NPO愛知家族会フォーラム　「イネイブラーからの脱出～家族はイネイブラーからどう脱したらよいか」 | NPO法人愛知家族会 |
| 薬物乱用防止支援以上に係る事例発表と意見交換会 | 東海北陸厚生局麻薬取締部 |
| かかりつけ医等心の対応力向上研修　「名古屋市における思春期相談窓口の取組と相談状況の概要」 | 名古屋市医師会 |
| 講義　「精神保健福祉」 | 名古屋市立大学医学部 |
| 講義　「精神保健と精神障害者福祉」 | 名古屋市立大学<br>医学部附属病院 |
| 医薬看連携地域参加型学習2022 | 名古屋市立大学病院・医療系学部・研究科連携教育委員会 |
| 精神保健医療福祉制度論（博士前期課程）①、② | 名古屋市立大学大学院<br>看護学研究科 |

## 会議等への出席

本市域の精神保健福祉活動の活性化のため、関係機関が主催する精神保健福祉に関する会議等へ参加、事務従事を行った。

| 会議名 | 分野 | 回数 |
|---|---|---|
| 愛知県精神保健福祉協会 | その他 | 4 |
| DPAT体制整備共有会議 | 災害 | 1 |
| 愛知県DPAT運営委員会、訓練企画会議 | 災害 | 2 |
| 愛知発達障害者等就労支援連絡協議会 | 社会復帰 | 2 |
| 愛知県高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連絡調整委員会 | 社会復帰 | 2 |

| | | |
|---|---|---|
| 愛知県医療観察制度運営連絡協議会及び幹事会、部会等 | 社会復帰 | 5 |
| 愛知県精神医療センター医療観察法病棟倫理会議 | 社会復帰 | 2 |
| 医療観察法のケア会議、CPA会議 | 社会復帰 | 40 |
| 精神科病院実地審査 | 社会復帰 | 7 |
| 名古屋市障害者施策推進協議会、協議会、専門部会 | 社会復帰 | 4 |
| 名古屋市障害者就労支援推進会議 | 社会復帰 | 1 |
| 名古屋市精神保健福祉審議会 | 社会復帰 | 1 |
| 名古屋市精神障害者支援地域調整会議 | 社会復帰 | 1 |
| 名古屋市精神発達障害者雇用支援連絡協議会 | 社会復帰 | 1 |
| 名古屋市発達障害者体制整備検討委員会 | 社会復帰 | 2 |
| 名古屋市保健所嘱託医会 | その他 | 1 |
| 名古屋市自殺対策総合計画策定検討会 | 自殺対策 | 2 |
| 名古屋市自殺対策連絡協議会及び庁内連絡会議 | 自殺関連 | 2 |
| 名古屋市自殺対策関係相談機関等ネットワーク会議 | 自殺関連 | 1 |
| こころの健康フェスタ打合せ | 自殺関連 | 8 |
| 自死遺族カウンセリング名大との懇話会 | 自殺関連 | 1 |
| 自死遺族支援コンシェルジュ聴取会 | 自殺関連 | 1 |
| スマイルデーなごや事前打ち合わせ | 自殺関連 | 2 |
| あした天気にな～れ・実行委員会 | 心の健康 | 5 |
| 各機関ケース会議 | 社会復帰 | 7 |
| 精神障害にも対応した地域包括ｹｱｼｽﾃﾑ構築推進事業関連会議 | 社会復帰 | 37 |
| 地域移行・地域定着支援推進関連研修に関する会議 | 社会復帰 | 7 |
| ひきこもり支援団体連絡会議 | ひきこもり | 1 |
| 法務局第2課との事業共有会 | ひきこもり | 1 |
| 全国依存症相談員会議 | 依存症 | 1 |
| アルコール問題関係機関連絡協議会 | アルコール | 2 |
| 八事アルコールネットワーク会議 | アルコール | 1 |
| 愛知連合断酒会SBIRT研修に関する会議 | アルコール | 1 |
| ギャンブル等依存症対策関係機関連絡会議 | ギャンブル | 1 |
| 薬物問題関係機関連絡会議、事前会議 | 薬物 | 3 |
| 薬物依存症回復支援ネットワーク会議 | 薬物 | 3 |
| 東海北陸厚生局麻薬取締部連絡会議 | 薬物 | 1 |
| 全国精神保健福祉センター研究協議会 | その他 | 1 |
| 全国精神保健福祉センター長会・理事会・大都市部会 | その他 | 3 |
| 中部･近畿ブロック精神保健福祉センター長会 | その他 | 1 |
| 全国精神医療審査会長・精神保健福祉センター所長会議 | その他 | 1 |
| 全国精神医療審査会連絡協議会 | その他 | 1 |
| 愛知県名古屋市精神保健福祉センター意見交換会 | その他 | 2 |

# 人材育成

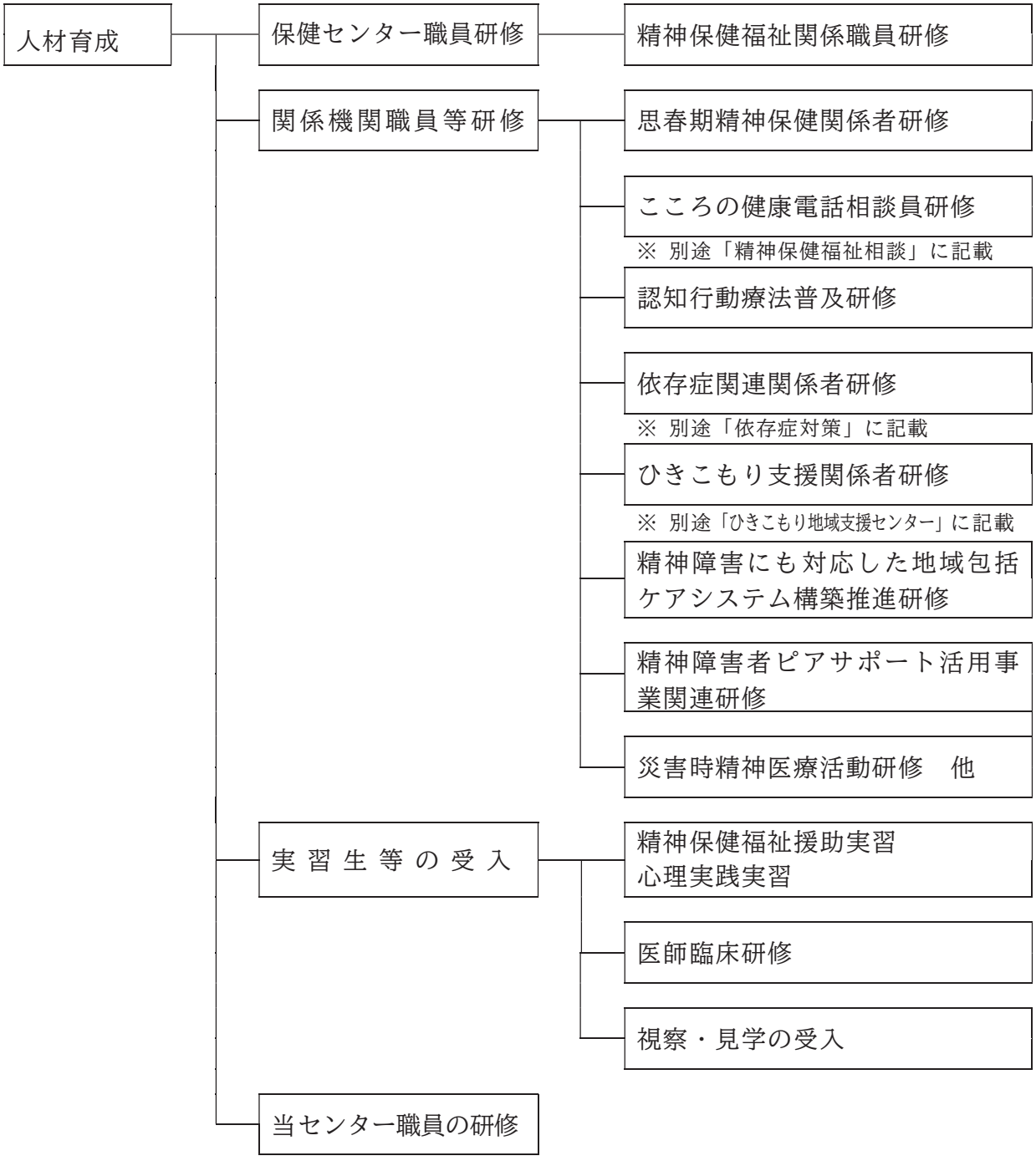
## 1　趣旨

保健センター、福祉事務所、障害者総合支援法に規定する障害福祉サービスを行う事業所等その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の人材育成を行い、技術的水準の向上を図る。

## 2　概況

令和４年度は、保健センター職員研修、関係機関職員等研修、実習生等の受入及び当センター職員への研修を行った。

## 3　体系



## 精神保健福祉関係職員研修

### 1　趣旨

精神保健福祉に関係する職員に対してさまざまな研修を実施し、業務上必要な基本的知識の理解及び援助技術の習得を図るもの。

### 2　実績

（1）講義　（会場：名古屋市精神保健福祉センター※オンライン開催とあるもの以外）

| 実 施 日 | 内　　容 | 参 加 |
|---|---|---|
| ４月６日 | ・精神科医療の概要と緊急対応を要する精神症状<br>・精神保健福祉センター業務について<br>・精神科救急（措置入院等）について<br>講師：　精神保健福祉センター職員、健康部健康増進課職員<br>（※オンライン開催） | 14名 |
| ４月１２日 | | 6名 |
| ５月１１日 | ・保健センターの精神保健福祉業務について<br>・措置入院者の退院後支援、名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取組について<br>・精神保健福祉センター業務、ひきこもり支援、依存症相談窓口について<br>講師：　中村保健センター精神保健福祉相談員<br>健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員 | 9名 |
| ６月２１日 | ・事例検討の進め方、ファシリテーションの技術について<br>講師：　小笠病院 精神保健福祉士　平野 慎一朗　氏 | 13名 |
| ７月２２日 | ・精神疾患と向精神薬、動機づけ面接について<br>講師：　精神保健福祉センター職員<br>（※オンライン開催） | 17名 |
| ９月８日 | ・面接技法研修①「初回面接の進め方」<br>講師：　中京大学心理学部教授　神谷 栄治　氏 | 15名 |
| ９月２２日 | ・面接技法研修②「パーソナリティ障害等の理解と対応」<br>講師：　中京大学心理学部教授　神谷 栄治　氏 | 17名 |

(2) 精神科医療機関実習

ア　趣旨

精神科医療機関における精神保健福祉業務についての理解を深め、あわせて精神科医療機関との連携を図るもの。

イ　対象者

保健センター新任精神保健福祉相談員（令和3年度新任者、令和4年度は対象者なし）・精神保健福祉センター職員（令和3・4年度新任者）

ウ　日時

新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に鑑み、令和3年度に引き続き中止

(3) 精神保健福祉事例検討会

ア　趣旨

精神保健福祉相談業務に従事するにあたり、必要な技術の習得・向上を図るため、実際の事例に基づき、その対応方法や方針、各機関・職種の役割分担等具体的な相談業務について検討するもの。併せて、ケース会議等でのファシリテーションスキルを獲得する機会とする。

イ　参加者

保健センター精神保健福祉相談員・保健師等精神保健福祉関係職員、
健康部健康増進課職員、精神保健福祉センター職員　他

ウ　日時及び内容

| 実 施 日 | 担 当 | 内　　容 | 参 加 |
|---|---|---|---|
| 5月１０日 | 幹事区 | 「精神保健福祉相談員の役割とは<br>～本人・家族・警察それぞれの思惑を巡って～」<br>北保健センター 精神保健福祉相談員 | 18名 |
| 7月１２日 | 東<br>ブロック | 「保健センターにおける患者の命を守る支援とは<br>～もしもに備えた対策を考える～」<br>中保健センター 精神保健福祉相談員 | 18名 |
| 9月１３日 | 北<br>ブロック | 「コロナ禍における新任相談員の苦悩<br>～障害者虐待ケースを通して～」<br>西保健センター 精神保健福祉相談員 | 18名 |
| １１月８日 | 西<br>ブロック | 「分離に関する意思決定支援<br>～障害者虐待の現場から（2事例）」<br>中川保健センター 精神保健福祉相談員 | 17名 |
| 1月１０日 | 南<br>ブロック | 「家族関係不調にある若年ひきこもり事例」<br>緑保健センター 精神保健福祉相談員<br>「母との関係が悪い中高年ひきこもり事例　（保健医療型アウトリーチ支援モデル事業実施に向けて）」<br>緑保健センター 精神保健福祉相談員 | 22名 |
| 3月１４日 | 幹事区 | 「24条通報による措置入院者のケース報告」<br>健康部健康増進課職員<br>「23条通報による措置入院者のケース報告」<br>千種保健センター 精神保健福祉相談員 | 19名 |

## 思春期精神保健関係職員研修

### 1　趣旨

思春期の精神的な発達及び思春期に起こりがちな心の健康に関する諸問題を主な内容とし、保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、専門職として資質の向上を図ることを目的とするもの。

## 2　実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | ・各区保健センター<br>・本市関係機関（教育委員会、子ども青少年局）<br>・教育機関（名古屋市内高等学校、特別支援学校）<br>・各区民生子ども課、支所区民福祉課<br>・その他関係機関 |
| 実 施 日 | １２月１６日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | 「思春期青年期の特徴とストレス ～ 私たちのかかわり方の工夫 ～」<br>講師：名古屋市立大学大学院　看護学研究科　教授 香月 富士日 氏 |
| 参　　加 | ３４名 |

## こころの健康電話相談員研修

※ 別途、P48「精神保健福祉相談（こころの健康電話相談）」に記載

## 認知行動療法普及研修

### 1　趣旨

当センターでは、認知行動療法の普及と、うつ病患者等への治療の質の向上を図るため、市域の医療従事者等を対象とした研修を実施している。

### 2　実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 名古屋市内の医療機関等で診療・相談等に従事する医師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、保健師、看護師、市内の小中高等学校・大学の教員やスクールカウンセラー等 |
| 実 施 日 | 2月１７日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | 「岐阜県におけるゲーム・インターネット依存症対策について<br>～各務原病院での認知行動療法を用いた取り組みと効果、他機関との連携について～」<br>講師：医療法人杏野会各務原病院　院長補佐・公認心理師　松田 純 氏 |
| 参　　加 | ５７名　（機関数３３） |

## 依存症関連関係者研修

※ 別途、P75-77「依存症対策（依存症支援者研修）」に記載

## ひきこもり支援関係者研修

※ 別途、P84「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援セミナー）」に記載

## 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進研修

### 1　趣旨

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて、地域の精神保健医療福祉関係者の連携を推進し、精神障害者が地域でその人らしく生活を送れるよう、支援体制の構築を図る。

### 2　実績

(1)日本精神科看護協会愛知県支部との共催研修

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 愛知県内（東三河は除く）精神科病院に勤務する看護師等 |
| 実 施 日 | ２月２７日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | ①「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」<br>説明：名古屋市健康福祉局健康増進課職員<br>②「名古屋市東ブロックにおける取り組みについて」<br>「名古屋市精神障害者ピアサポーターによる発表」<br>講師：千種区障害者基幹相談支援センター職員<br>名古屋市精神障害者ピアサポーター<br>③グループワーク |
| 参　　加 | ２２名　（機関数１４） |

(2)精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業において行われる精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 指定特定・一般相談支援事業所、地域生活支援拠点事業所 |
| 実 施 日 | ７月１日 |
| 会　　場 | 名古屋市精神保健福祉センター |
| 内　　容 | ①「名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」<br>説明：健康福祉局健康部健康増進課 職員<br>②「精神障害者の障害特性と支援技法について①<br>障害特性の理解及び具体的な支援方法（統合失調症・気分障害）」<br>講師:医療法人桜桂会　犬山病院<br>医療社会事業室　室長・精神保健福祉士　緒方　未輝子　氏<br>③「精神障害者の障害特性と支援技法について②<br>障害特性の理解及び具体的な支援方法（老年期・依存症・発達障害）」<br>講師：特定非営利活動法人さざさみ　生活支援センターさざなみ<br>精神保健福祉士　中住　正紀　氏<br>④「当事者の想いを学ぶ～ピアサポーターのメッセージ～」<br>発表者：名古屋市内で活躍されている精神障害者ピアサポーター　２名<br>⑤「社会資源と連携、家族支援の必要性について」<br>講師：社会福祉法人　半田市社会福祉協議会<br>半田市障がい者相談支援センター　副センター長　徳山　勝　氏 |
| 参　　加 | ７３名 |

## 精神障害者ピアサポート活用事業関連研修

### 1　趣旨

精神障害のある当事者が自らの経験を活かし、精神科病院に入院中の方への退院意欲の動機づけ支援や地域の家族会等において地域移行・地域定着支援の普及啓発活動を行う精神障害者ピアサポーター（以下「ピアサポーター」という。）及びピアサポーター支援者の養成を目的とするもの。

なお、この研修でいうピアサポーターは、精神障害者ピアサポート活用事業実施要綱に基づき行う、精神障害者ピアサポート活用事業における精神障害者ピアサポーターとする。

### 2　実績

(1)精神障害者ピアサポーター養成研修

| | |
|---|---|
| 対　　象 | ① 当事者<br>ア 市内在住または市内の障害福祉サービス事業所を利用しているピアサポート活動希望当事者<br>イ 医療機関デイケアを利用しているピアサポート活動希望当事者<br>② 支援者(本市ピアサポート活用事業において当事者を支援するもの)<br>ア 各区障害者基幹相談支援センター関係職員<br>イ 障害福祉サービス事業所関係職員<br>ウ 医療機関デイケアの関係職員 |
| 参加延べ人数 | ６６名 |
| ＜講義編＞ | |
| 実 施 日 | ９月１４日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | ①「みんなが元気で暮らせるために<br>～ピアサポーターと支援者に求められる役割について～」<br>講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療福祉マネジメント学科<br>教授・社会福祉学博士　青木　聖久 氏<br>②「本市活動事業に従事した想いと支援者と歩んだ経験について」<br>「当事者との協働について」<br>講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者<br>鶴舞こころのクリニック ケースワーカー　傳田 芳子 氏<br>③受講者によるグループワーク<br>「現状と今後取り組みたい活動内容について」 |
| 参　　加 | ３２名　（内訳：当事者１５名、支援者１７名） |
| ＜実践編＞ | |
| 実 施 日 | １０月２８日 ・ １１月２２日 （同じ内容で２回実施） |
| 会　　場 | 名古屋市精神保健福祉センター |
| 内　　容 | ①「ピアサポーターの活動および活動を継続する上で必要な考え方について」<br>講師：名古屋市精神保健福祉センター職員<br>②ピアサポーターとして活躍中の先輩の体験談<br>講師：名古屋市ピアサポーター活動当事者　３名<br>③体験発表及びグループ交流会「実際に体験談を発表してみましょう」 |
| 参　　加 | ３４名　（内訳：当事者１７名、支援者１７名） |

（2）精神障害者ピアサポーター フォローアップ研修

| | |
|---|---|
| 目　　的 | ピアサポーターとしての活動継続へのモチベーションや質の向上を目的とする |
| 対　　象 | ①令和４年度名古屋市精神障害者ピアサポーター養成研修受講者<br>②名古屋市精神障害者ピアサポート活用事業登録者<br>（当研修を過去に受講された活用事業登録者は除く）<br>③受講希望当事者を支援されている方 |
| 実 施 日 | ３月１３日 |
| 会　　場 | 名古屋市精神保健福祉センター |
| 内　　容 | ①講義：「ピアサポーターとして活動する意味～当事者として、<br>ピアサポーターとして、ピアサポーター支援者として～」<br>講師：作業所型地域活動支援事業くさのねっと　施設長 亀沖 昌睦　氏<br>②受講者によるグループワーク<br>「仲間との交流を通して体験談を伝える意味合いを考えてみましょう ！」 |
| 参　　加 | １４名　（内訳：当事者９名、支援者５名） |

## 災害時精神医療活動研修

### 1　趣旨

名古屋市域内外における大規模自然災害及び大規模事故等の発生時において、精神医療機関の支援、被災者の心のケア活動等を行うことができるよう関係職員を対象に研修を行うもの。

令和４年度は、WHO版心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）に関する基本的技能を習得し、保健センター職員が、今後の地域での防災関連の事業において、心の健康の普及活動に取り組めるよう実施した。

### 2　実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 保健センター職員（精神保健福祉相談員、保健師、医師等）<br>区役所および支所職員（総務課、民生子ども課、福祉課、区民福祉課）<br>健康福祉局職員（健康増進課、保健医療課、高齢福祉課、地域ケア推進課）<br>子ども青少年局職員（子育て支援課、児童相談所等）、防災危機管理局職員 |
| 実 施 日 | １１月９日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | 講義　「WHO版心理的応急処置（PFA）について」<br>講師：　東北医科薬科大学医学部精神科学教室 病院准教授 福地 成 氏 |
| 参　　加 | ２０名 |

## 愛知県医療観察制度研修

### 1　趣旨

平成29年度より「医療観察法に基づく地域社会における処遇に関する愛知県運営要綱」の第1章の第2の2の(2)に基づき研修部会が設置された。研修部会は令和2年度に地域連携部会として再編成され、当センターも部会の一員として、処遇の質の向上に資する研修又は研究の機会について企画・検討を行うもの。

### 2　実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 瀬戸保健所管内にある、①精神科病院（非指定通院医療機関も含む）、②瀬戸保健所、③市長村主管課、④障害福祉サービス事業所（居住系、就労系、相談支援）、⑤尾張東部権利擁護支援センター |
| 実 施 日 | １月２５日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | 医療観察制度に関する説明 |
| 参　　加 | ４１機関 |

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 愛知県内の訪問看護ステーション |
| 実 施 日 | ２月８日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | ・東海北陸厚生局からの資料報告<br>「医療観察法診療報酬請求・算定方法について」<br>・意見交換　「地域処遇における円滑な医療の実施について」 |
| 参　　加 | １６機関 |

## 実習生等の受入

### 1　精神保健福祉援助実習

(1) 趣旨

精神保健福祉士法第7条第1号により、学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健及び福祉に関する科目を修めて卒業した者その他その者に準ずるものとして厚生労働省令で定める者については、精神保健福祉士試験受験資格を有すると規定され、平成10年厚生労働省告示第8号により定められた指定科目の中に「精神保健福祉援助実習」が含まれている。

この精神保健福祉士国家試験受験資格付与に係る、学校教育法に定める大学のカリキュラム「精神保健福祉援助実習」として学生を受け入れるもの。

(2) 実績

| | |
|---|---|
| 対象大学名<br>（受入人数） | 同朋大学（２名）<br>東京福祉大学（１名） |
| 実　施　日 | ６月６日～６月２１日 |
| 実習施設 | 名古屋市精神保健福祉センター（12日間）<br>北・中村・熱田保健センター（1日間） |

| | | |
|---|---|---|
| 担当体制 | 精神保健福祉相談員のうち精神保健福祉士２名で実習生を担当 | |
| 内容 | オリエンテーション | ①精神保健福祉センター・保健センターの業務について<br>②名古屋市の精神保健福祉施策について |
| | 講義 | 精神疾患、精神医療審査会、手帳等の判定、特定相談（思春期・自死遺族）、障害者総合支援法、ひきこもり関連、依存症対策事業、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業等 |
| | 実習 | 各相談、事業に参加 |
| | 教材（供与） | 「名古屋市精神保健福祉センター所報」、「資料集」、「障害者福祉のしおり」、その他センター発行物等 |

## ２　公認心理師養成のための心理実践実習

（1）趣旨

公認心理師法第7条により、学校教育法に基づく大学において主務大臣指定の心理学等の科目を修め、かつ大学院において主務大臣指定の心理学等の科目を修めてその課程を修了した者等については公認心理師の受験資格を有すると規定されている。ここに規定されている心理学等の科目の中には、学外施設で実習を行う「心理実践実習」が含まれている。

この公認心理師国家試験受験資格付与に係る大学のカリキュラム「心理実践実習（臨床心理学外実習）」として、学生を受け入れるもの。

（2）実績

| 実施日 | 対象大学名（受入人数） | 内容 |
|---|---|---|
| ７月１９日 | 名古屋市立大学（８名） | 講義：<br>「精神保健活動・精神保健と精神障害者福祉」<br>「名古屋市における精神保健福祉業務の概要」 |
| ７月２７日 | 中京大学（１７名） | |

## ３　医師臨床研修

（1）趣旨

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修の施行にあたっては、国から「臨床研修の到達目標」が示されており、臨床研修病院の指定の基準では、この到達目標を達成できる研修プログラムを有することが求められている。この到達目標の中では、経験目標の一つに特定の医療現場の経験が掲げられ、その中に精神保健・医療も盛り込まれている。精神保健福祉センターも、精神科病院等と並び必須項目として経験すべき精神保健・医療の現場とされている。

当センターも臨床指定研修病院の研修協力施設という位置づけで、研修の一部を担い、研修医を受け入れるもの。

(2) 実績

| 協力した臨床指定研修病院 | 回　数 | 参　加 |
|---|---|---|
| 名古屋市立大学病院 | 1回 | 5名 |

## 当センター職員の研修

当センター職員の資質向上のため次の研修に職員を派遣した。

| 研修名 | 派遣延人数 |
|---|---|
| アルコール依存症研修（相談対応指導者養成研修）オンライン | 2日×1名 |
| ギャンブル等依存症研修（相談対応指導者養成研修）オンライン | 2日×1名 |
| ゲーム・インターネット依存症研修　オンライン | 2日×1名 |
| 名古屋市依存症支援者研修（薬物等依存症） | 2日×1名 |
| 名古屋市依存症支援者研修（アルコール依存症） | 2日×2名 |
| 思春期精神保健研修　ひきこもり対策研修　オンライン | 2日×1名 |
| DPAT事務担当者研修　オンライン | 1日×1名 |
| 愛知DPAT研修　オンライン | 1日×3名 |

## 普及啓発

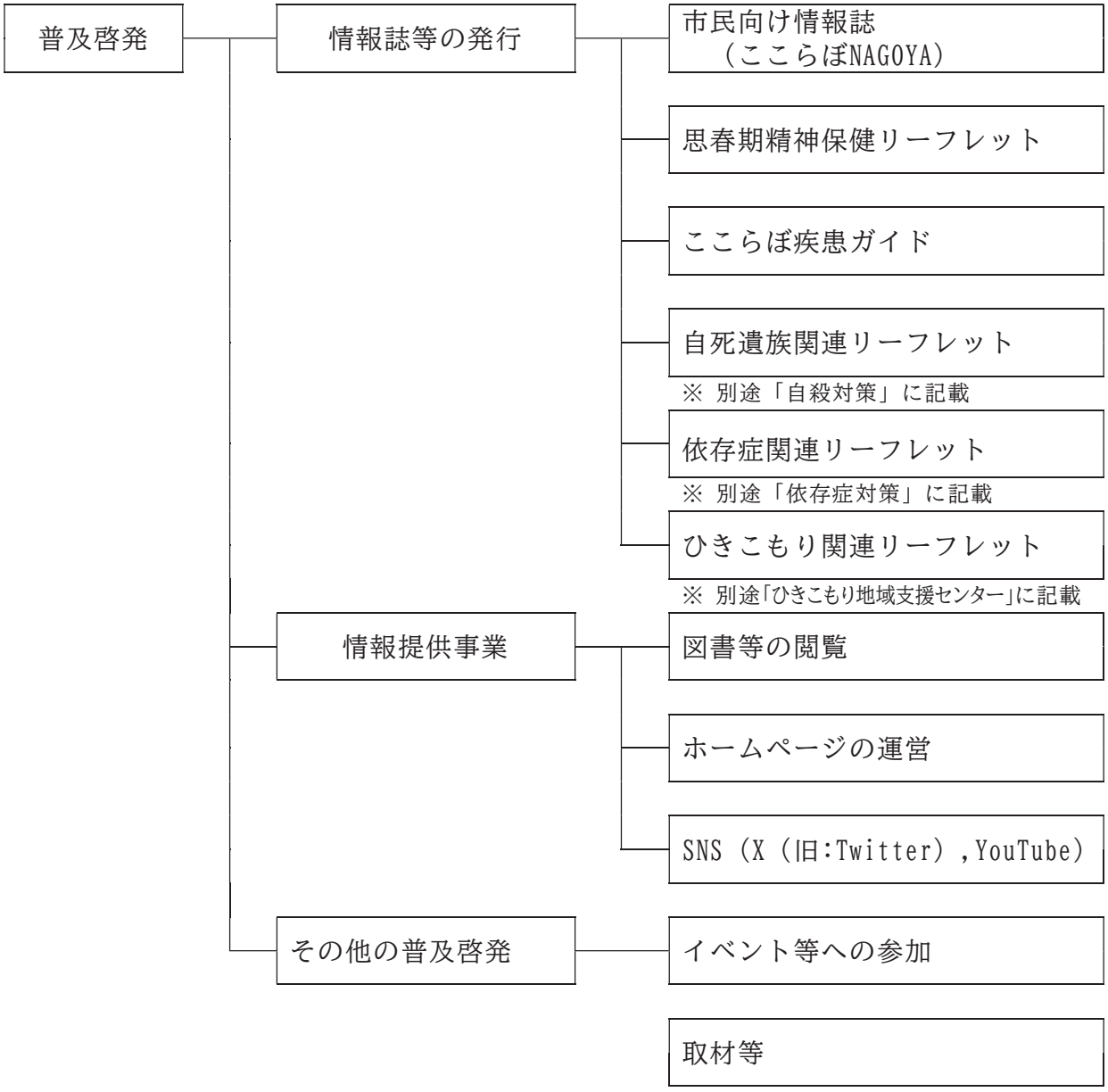
### 1　趣旨

市民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健センター等が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

### 2　概況

令和４年度は市民向け情報誌、思春期精神保健リーフレット、精神疾患に関するガイドブック、ひきこもり・依存症関連のリーフレット等を発行した。また、ホームページの運営、Ｘ（旧：Twitter）、YouTubeでの情報提供を実施した。

### 3　体系



## 市民向け情報誌(ここらぼNAGOYA)

### 1　趣旨

当センターの行う事業や精神保健福祉関係機関等の活動、法律･施策に関するタイムリーな情報、精神医学的な知識や技術に関する情報などを掲載した情報誌を発行し、広く市民に情報提供することで、精神保健福祉施策の一層の推進を図るもの。

毎年、年2回発行している。

### 2　実績

| 名　　称 | 名古屋市精神保健福祉センター通信　ここらぼNAGOYA | |
|---|---|---|
| 対　　象 | 一般市民、関係機関 | |
| 号　　数 | 31号 | 32号 |
| 発行部数 | 2,800部 | 2,800部 |
| 発 行 月 | 9月 | 3月 |
| 内　　容 | ・「名古屋市ひきこもり地域支援センター」開設10周年<br>・ひきこもり地域支援センターのご紹介<br>・「ひきこもりコミュニケーションプログラム～家族の豊かな関係づくり～」の発行について<br>・令和4年度名古屋市ひきこもり支援セミナーについて（報告）<br>・名古屋市精神保健福祉センター（ここらぼ）依存症相談員増員に関するご案内<br>・依存症相談における連携の必要性について<br>・令和3年度薬物関連問題関係機関連絡会議に参加して（報告）<br>・令和3年度「こころの健康フェスタなごやオンライン」を開催しました（報告）<br>・公式twitterアカウントのご案内<br>・リレーでつなごう！地域の支援機関（第21回） | ・地域で暮らすこと<br>・令和4年度精神障害者ピアサポーター養成研修について<br>・令和4年度「アディクション・セッション」/令和4年度名古屋市依存症講演会/「ひきこもり家族教室」を開催しました（報告）<br>・令和4年度名古屋市ひきこもり講演会（報告）<br>・リレーでつなごう！地域の支援機関（第22回） |

## 思春期精神保健リーフレット

**1　趣旨**

思春期精神保健に関しては、背景となる精神疾患は多様である。当センターや関係機関における相談者の疾病理解の促進を図るとともに、思春期精神保健についての市民の理解をより深めていただくために、思春期精神保健に関するリーフレットを発行するもの。

**2　実績**

子どものネット・ゲームの使用について悩む方等を対象に、家族の関わり方やルール作りのポイントなどを掲載した当センター作成リーフレット「ネット・ゲームとの上手な付き合い方」を相談事業などでの配布及び支援機関等への送付をした。

## ここらぼ疾患ガイド

**1　趣旨**

市民に疾病理解の促進を図ること等を目的に、様々な精神疾患について疾患ガイドを発行するもの。

**2　実績**

令和4年度は、①「統合失調症」②「双極性障害」③「発達障害」④「高次脳機能障害」⑤「うつ病」を、本市ウェブサイトに掲載した。

## 自死遺族関連リーフレット

※ 別途、P58-59「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

## 依存症関連リーフレット等

※ 別途、P77-78「依存症対策
（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

## ひきこもり関連リーフレット等

※ 別途、P85-86「ひきこもり地域支援センター
（ひきこもりに関する普及啓発および情報発信）」に記載

## 情報提供事業

### 1　図書・各種媒体の閲覧（貸出）

資料室に図書やビデオ・DVDを備え付け、市民への閲覧に供する他、関係職員に貸出を行った。

### 2　ホームページの運営及びSNSを利用した情報提供

当センターでは、これまで公式ホームページにおいて主催事業等の情報提供をおこなってきた。

令和２年度からはＸ（旧：Twitter）、YouTubeの公式アカウントを新たに開設し、こころの健康に関する様々な情報提供を行っている。

**(1) ホームページ（平成13年2月開設）**

| | |
|---|---|
| ホームページアドレス（URL） | http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-5-3-0-0-0-0-0-0-0.html |

**(2) Ｘ（旧：Twitter）（令和2年9月開設）**

| | |
|---|---|
| アカウントURL | https://twitter.com/cocolabo758 |

**(3) YouTube（令和3年2月開設）**

| | |
|---|---|
| アカウントURL | https://www.youtube.com/channel/UCk5EadWcdOfckjf6XHV31BA |

## その他の普及啓発

### 1　イベントへの参加

「スマイル！こころの絆創膏デー2022オンラインイベント」への参加

※ 別途、P57「自殺対策（自殺の予防）」に記載

### 2　取材等

報道機関（新聞社、テレビ局）からの取材・・・５件

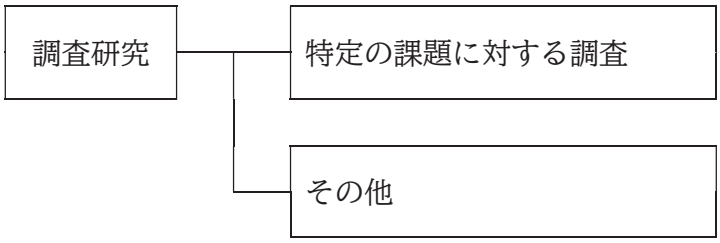
（内容）　新型コロナウイルスこころのケア相談
依存症、ひきこもり、ゲーム依存に関すること　など

# 調査研究

## 1　趣旨

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、保健センター等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

## 2　体系




### 視察調査

| 件　　名 | 派遣延人数 |
|---|---|
| 名古屋保護観察所への視察 | 1日×3名 |
| | 1日×3名 |
| 名古屋刑務所への視察 | 1日×3名 |
| 瀬戸少年院への視察 | 1日×3名 |
| | 1日×3名 |
| 各務原病院への視察 | 半日×3名 |

## 精神保健福祉相談

### 1　趣旨

精神保健福祉センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。精神保健福祉センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求める。

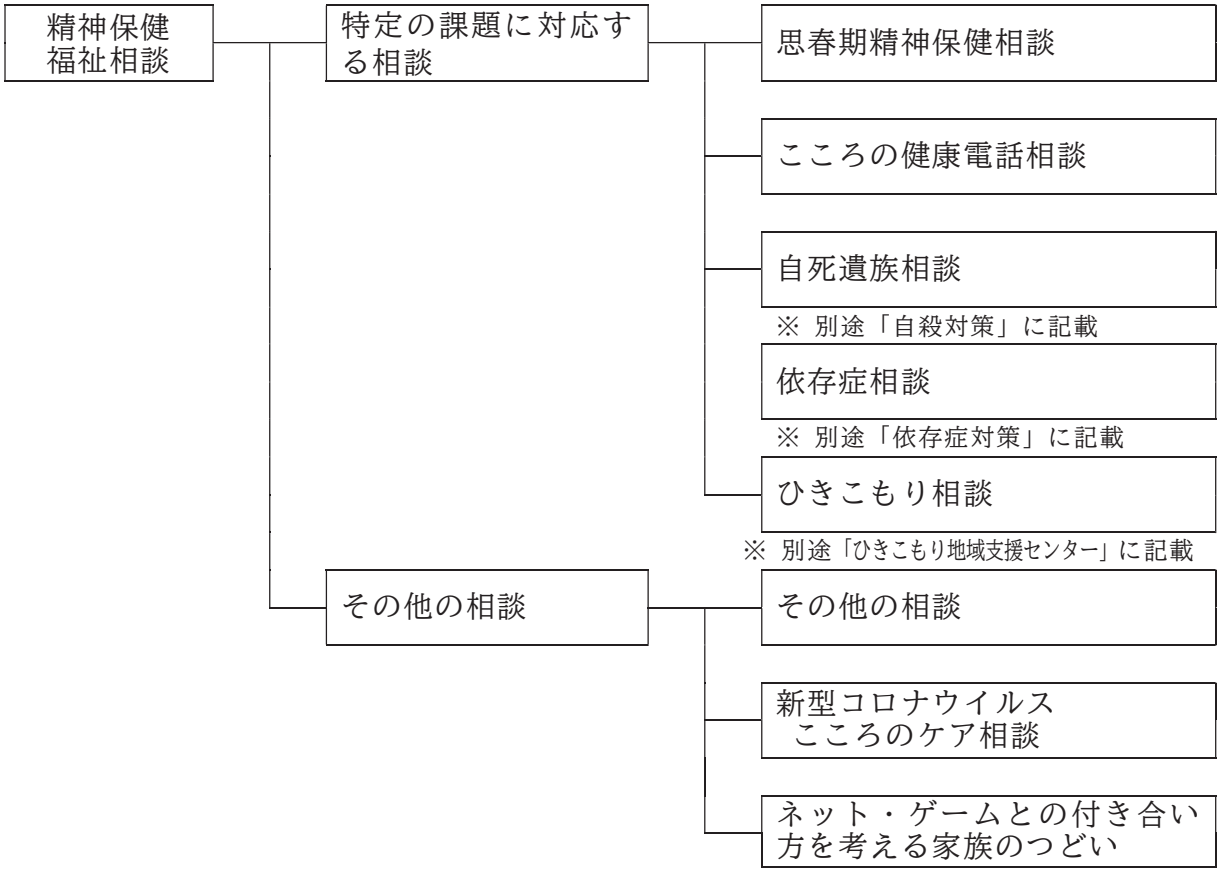
### 2　概況

令和４年度は、特定の課題に対応する相談として以下の相談を引き続き実施した。

「精神保健福祉センターにおける特定相談指導事業」における思春期精神保健相談に関する相談指導等として「思春期精神保健相談」を実施した。その他、自殺対策として「自死遺族相談」を、「心の健康づくり推進事業」における心の健康づくり相談事業として「こころの健康電話相談」を実施した。また、当センターは、「依存症対策総合支援事業」における依存症相談拠点として「依存症相談」を、さらに、「ひきこもり支援推進事業」におけるひきこもり地域支援センター設置運営事業の一環として「ひきこもり相談」を実施した。

また、感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に関する不安など様々な心の不調を和らげることを目的として、電話相談「新型コロナウイルスこころのケア相談」を実施した。

### 3　体系



## 相談件数総括

### 1　特定の課題に対する相談

（1）各種相談

| | 来所（特定相談日） | | 来所（左記以外） | | 電話 | | 出張 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 実※ | 延※ | 実 | 延 | 実 | 延 | 実 | 延 | 実 | 延 |
| 思春期精神保健相談 | 49 | 53 | — | — | — | — | — | — | 49 | 53 |
| 自死遺族相談 | 11 | 12 | — | — | — | — | — | — | 11 | 12 |
| 依存症相談 | 76 | 76 | — | — | 637 | 1,059 | — | — | 713 | 1,135 |
| ひきこもり相談 | 22 | 22 | 192 | 848 | 294 | 972 | 35 | 103 | 543 | 1,945 |
| 司法書士相談 | 5 | 13 | — | — | — | — | — | — | 5 | 13 |
| 合計 | 163 | 176 | 192 | 848 | 931 | 2,031 | 35 | 103 | 1,321 | 3,158 |

※実：実件数、延：延件数

（2）こころの健康電話相談

| 電話相談件数 | 1,647件 |
|---|---|

### 2　その他の相談

（1）その他の相談

| 来所 | | 電話 | | 文書 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 実件数 | 延件数 | 実件数 | 延件数 | 実件数 | 延件数 | 実件数 | 延件数 |
| 97 | 166 | 1,157 | 1,502 | 32 | 34 | 1,286 | 1,702 |

（2）新型コロナウイルスこころのケア相談

| 電話相談件数※ | 1,338件（90件） |
|---|---|

※「こころの健康電話相談」で受けた新型コロナウイルス感染症に関する相談及び夜間電話相談件数を含む。

※（　）内は、当センター受理分再掲。

## 思春期精神保健相談

### 1　趣旨

思春期に起こるさまざまな悩みや、こころの不調・こころの病気を抱えている本人やその家族等を対象に「思春期の精神保健相談」を実施するもの。平成30年度より精神科医師による相談枠を設けている。

## 2　実施状況

### (1) 概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 「思春期の精神保健相談」 |
| 実 施 日 | ① 第1・第2木曜日、第4火曜日　14時～16時　予約制<br>② 第1または第2火曜日　14時～15時　予約制 |
| 担　　当 | 非常勤の特定相談員(医師、臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師 |

### (2) 実績

相談件数（相談来所者の男女別内訳）

| | 実件数 | 延件数 |
|---|---|---|
| 男　性 | 5 | 5 |
| 女　性 | 44 | 48 |
| 計 | 49 | 53 |

相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

| | ～12歳 | 13～15歳 | 16～18歳 | 19～22歳 | 23歳～ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 男　性 | 4 | 8 | 15 | 5 | 0 | 32 |
| 女　性 | 2 | 4 | 9 | 2 | 0 | 17 |
| 計 | 6 | 12 | 24 | 7 | 0 | 49 |

来所経路

| 自　発 | | | | | | | | 紹　介 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 保健センター | 学　校 | 病　院 | ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ | 広　報なごや | その他 | 不明 | | |
| 48 | 4 | 4 | 4 | 28 | 0 | 8 | 0 | 1 | 49 |

初回相談時の来所者

| 家族のみ | 相談対象者(本人のみ) | 本人と家族 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 34 | 2 | 13 | 0 | 49 |

初回相談時の処遇

| 病院･診療所を紹介 | その他の機関を紹介 | 終結 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 38 | 2 | 49 |

## こころの健康電話相談

### 1　趣旨

「心の健康づくり相談事業」の一環として、市民の心の健康に関する電話相談（匿名）を行うもの。

### 2　実施状況

(1) 概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 「こころの健康電話相談」 |
| 実 施 日 | 閉庁日を除く平日の12時45分～16時45分 |
| 担　　当 | 非常勤の電話相談員 |

(2) 実績

月別相談延件数

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 142 | 136 | 143 | 121 | 151 | 151 | 138 | 134 | 162 | 128 | 115 | 126 | 1,647 |

※　新型コロナウイルス感染症に関する相談を含む。

### 3　研修

こころの健康電話相談を担当している電話相談員等を対象とし、精神保健福祉施策及び精神障害（者）についての基本的な知識を習得するため研修を開催するもの。

| 実 施 日 | 内　　容 | 参加 |
|---|---|---|
| 第Ⅰ期<br>１１月２５日 | ①講義「危機を考える」<br>講師：精神科医　平山太日子　氏<br>②交流会<br>講師：精神保健福祉センター職員 | 9名 |
| 第Ⅱ期<br>３月２３日 | ①講義「仕事・暮らし自立サポートセンターの相談事業から学ぶ」<br>講師：仕事・暮らし自立サポートセンター大曽根<br>副センター長　石上　里美　氏<br>②交流会<br>③「こころの健康電話相談対応マニュアル」の確認<br>講師：精神保健福祉センター職員 | 13名 |

## 自死遺族相談

※ 別途、P58-59「自殺対策（自死遺族に対する支援）」に記載

## 依存症相談

※ 別途、P73-75「依存症対策（依存症のご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

## ひきこもり相談

※ 別途、P83-84「ひきこもり地域支援センター（ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談）」に記載

## その他の相談

### 1　一般予約相談

| 実人員 | 延人員 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 高齢期 | 社会復帰 | ｱﾙｺｰﾙ | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | ゲーム | 思春期 | 心の健康づくり | うつ状態 | 摂食障害 | てんかん | その他 | 計 |
| 77 | 0 | 0 | 12 | 6 | 117 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 8 | 145 |

### 2　来所相談

| 実人員 | 延人員 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 高齢期 | 社会復帰 | ｱﾙｺｰﾙ | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | ゲーム | 思春期 | 心の健康づくり | うつ状態 | 摂食障害 | てんかん | その他 | 計 |
| 20 | 3 | 9 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 2 | 21 |

### 3　一般電話相談

| 実人員 | 延人員 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 高齢期 | 社会復帰 | ｱﾙｺｰﾙ | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | ゲーム | 思春期 | 心の健康づくり | うつ状態 | 摂食障害 | てんかん | その他 | 計 |
| 1,157 | 35 | 595 | 18 | 7 | 5 | 14 | 126 | 366 | 85 | 10 | 2 | 239 | 1,502 |

※ 新型コロナウイルスこころのケア相談件数含む

### 4　文書相談

| 実人員 | 延人員 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 高齢期 | 社会復帰 | ｱﾙｺｰﾙ | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | ゲーム | 思春期 | 心の健康づくり | うつ状態 | 摂食障害 | てんかん | その他 | 計 |
| 32 | 0 | 12 | 1 | 5 | 1 | 0 | 4 | 7 | 2 | 1 | 0 | 1 | 34 |

※ メール相談含む

## 新型コロナウイルスこころのケア相談

### 1　趣旨

新型コロナウイルス感染症に関する不安など様々な心の不調を和らげることを目的として電話相談を行うもの。

### 2　実施状況

(1) 概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 「新型コロナウイルスこころのケア相談」 |
| 実 施 日 | 閉庁日を除く平日の8時45分～22時（12時～13時をのぞく） |
| 担　　当 | 精神保健福祉相談員、保健師等 |

※ 夜間（17時～22時）については、名古屋市から委託を受けた民間団体が実施。

(2) 実績

月別相談延件数※

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 55<br>(2) | 60<br>(4) | 50<br>(3) | 42<br>(2) | 71<br>(8) | 52<br>(2) | 54<br>(3) | 64<br>(4) | 54<br>(0) | 64<br>(2) | 65<br>(1) | 88<br>(2) | 719<br>(33) |
| 女 | 55<br>(1) | 53<br>(6) | 66<br>(6) | 52<br>(7) | 63<br>(9) | 63<br>(3) | 52<br>(4) | 47<br>(3) | 51<br>(3) | 38<br>(8) | 46<br>(6) | 33<br>(1) | 619<br>(57) |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 110<br>(3) | 113<br>(10) | 116<br>(9) | 94<br>(9) | 134<br>(17) | 115<br>(5) | 106<br>(7) | 111<br>(7) | 105<br>(3) | 102<br>(10) | 111<br>(7) | 121<br>(3) | 1,338<br>(90) |

※ 「こころの健康電話相談」で受けた新型コロナウイルス感染症に関する相談及び夜間電話相談件数を含む。

※ （　）内は、当センター受理分再掲。

## 「ネット・ゲームとの付き合い方を考える家族のつどい」

### 1　趣旨

子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる親を対象に、ネット・ゲームやそれらを使用する子の心情への理解を深めつつ、子への関わり方を見直すことで、家族自身が問題を解決する意欲が高められることを目的に令和３年度から実施しているもの。

### 2　実施状況

(1) 対象：子どものネット・ゲームの使用について悩んでいる名古屋市在住又は在勤の家族（当センター思春期精神保健相談利用者を対象とする）

(2) 会場：名古屋市精神保健福祉センター

(3) 実績

| 実 施 日 | 内　　容 | 参 加 |
|---|---|---|
| 第１回<br>１０月１１日 | ①講話「ネット・ゲームへの理解と対応Ⅰ<br>～ネット・ゲームのことを知ろう」<br>講師：精神保健福祉センター職員<br>②交流会 | 2名 |
| 第２回<br>１０月２４日 | ①講話「ネット・ゲームが与える精神的・身体的影響」<br>講師：精神保健福祉センター所長・職員<br>②交流会 | 2名 |
| 第３回<br>１１月１１日 | ①講話「思春期の特徴と理解」<br>講師：臨床心理士　加藤 淑子 氏<br>精神保健福祉センター職員<br>②交流会 | 1名 |
| 第４回<br>１２月１２日 | ①講話「ネット・ゲームへの理解と対応Ⅱ<br>～コミュニケーションを見直そう」<br>講師：精神保健福祉センター職員<br>②交流会 | 2名 |
| 第５回<br>１月３０日 | ①講話「家族自身の生活を豊かにするために」<br>講師：臨床心理士　鈴木 昭江 氏<br>精神保健福祉センター職員<br>②交流会 | 2名 |

# 組織育成

## 1　趣旨

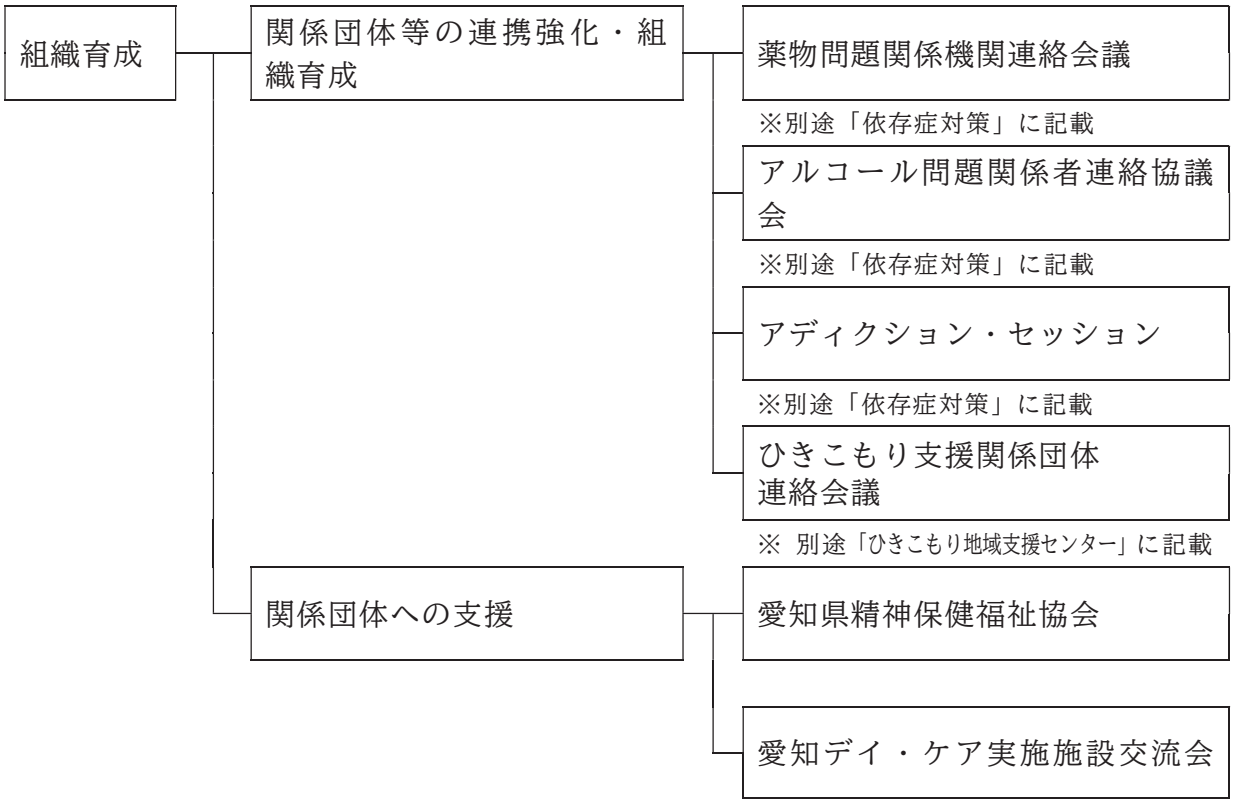
地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織活動が必要である。このため、精神保健福祉センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など組織の育成に努めるとともに、保健センター並びに地区単位での組織活動に協力する。

## 2　概況

令和４年度は、アルコール問題関係者連絡協議会の開催や、薬物問題関係機関連絡会議の愛知県との共催など、各種会議を開催した。また、愛知県精神保健福祉協会についても、引き続き所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱され、精神保健福祉基金審査委員会については、当センターで委員会の事務を務めた。

愛知デイ・ケア実施施設交流会についても引き続き所長が会長に就任し、当センターで事務局を務めた。その他、所長は名古屋連合断酒会の顧問にも就任している。

## 3　体系




### 薬物問題関係機関連絡会議

※ 別途、P71-72「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

## アルコール問題関係者連絡協議会

※ 別途、P71-72「依存症対策（関係機関との連携会議）」に記載

## アディクション・セッション

※ 別途、P77-78「依存症対策（依存症に関する普及啓発および情報発信）」に記載

## ひきこもり支援関係団体連絡会議

※ 別途、P84「ひきこもり地域支援センター（ひきこもり支援関係機関との連絡調整等）」に記載

## 関係団体の支援

### 1　愛知県精神保健福祉協会

愛知県精神保健福祉協会は、愛知県における精神保健及び精神障害者福祉に関する活動の推進を努めるために、趣旨に賛同する会員によって構成され、専門部会や委員会を設置して各種事業を行っている。事務局は、愛知県精神保健福祉センターに置かれている。

当センターは、所長が常務理事並びに広報研修部会長及び精神保健福祉基金審査委員長に委嘱されている。さらに、精神保健福祉基金審査委員会については、当センター職員が委員に委嘱され、委員会の事務を担っている。

(1)事業内容（関係分）

①会議

ア　総会

イ　理事会

ウ　常務理事会

②専門部会・委員会

ア　広報研修部会

精神保健福祉に関する知識の普及・啓発を行うため『こころの健康』を年2回発行し、「こころの健康を考える講演会」、「シンポジウム」を実施している。

令和元年度以降は、シンポジウムが新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

イ 精神保健福祉基金審査委員会

愛知県精神保健福祉協会は、主として精神障害者を対象とするグループホーム、小規模作業所等を運営する者に対し運営又は整備にかかる資金を無利子で貸付ける「精神保健福祉基金」の事業を行っており、本委員会は、適正な貸し付けを行うための審査を行っている。

また、平成 30 年度より精神障害者の社会参加や自立の推進に取り組む、個人やグループ・団体の活動を支援するため、本基金を活用した「愛知県精神保健福祉協会長奨励賞」の授与を行っている。

(2)実績

| 会議・事業名 | 参加回数 |
|---|---|
| 総会（オンライン開催） | 1 |
| 理事会（オンライン開催） | 1 |
| 常務理事会（オンライン開催） | 1 |
| 広報研修部会（オンライン開催） | 2 |
| 愛知県精神保健福祉協会長表彰選考会（オンライン開催） | 1 |
| 精神保健福祉基金審査委員会（オンライン開催） | 2 |
| 愛知県精神保健福祉協会長奨励賞表彰選考会（オンライン開催） | 1 |
| こころの健康を考える講演会（オンライン開催） | 1 |

## 2　愛知デイ・ケア実施施設交流会

(1) 趣旨

愛知県内のデイ・ケア、デイ・ナイト・ケア、ナイト・ケア各実施施設の相互交流を図り、事業および運営の向上を目指すもの。

令和４年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、例会は書面開催とし、学習会および総会はオンラインにて開催した。

(2) 実績

| 区分 | 実施日・実施方法 | 内　容 | 参　加 |
|---|---|---|---|
| 第 1回例　会 | 書面開催 | 「アンケート調査結果報告」<br>報告：北メンタル・クリニック<br><br>【アンケート調査の目的】<br>① コロナ過での精神科デイケアの活動状況と運営方法の変化を調査する<br>② 他施設での取り組みを知り、今後のデイケア運営・精神科デイケアの在り方について参考にする」 | 送付先<br>４３施設<br><br>回答機関<br>２４施設 |
| 第 2回例　会 | 書面開催 | 「デイケア紹介」<br>報告：藤城クリニック<br><br>デイケアを紹介する動画を製作し、YouTube上にて限定公開。 | 送付先<br>４３施設 |
| 学習会 | ３月１８日 | ○「院内におけるプログラムの取り組みについて」<br>講師：平安通クリニック<br>作業療法士　　青井 陽子 氏<br>精神保健福祉士　永田 朝美 氏<br><br>○「プログラム利用を通して得たもの」<br>報告：ショートケア・ナイトケア利用者 | ２１機関<br>（２２名） |

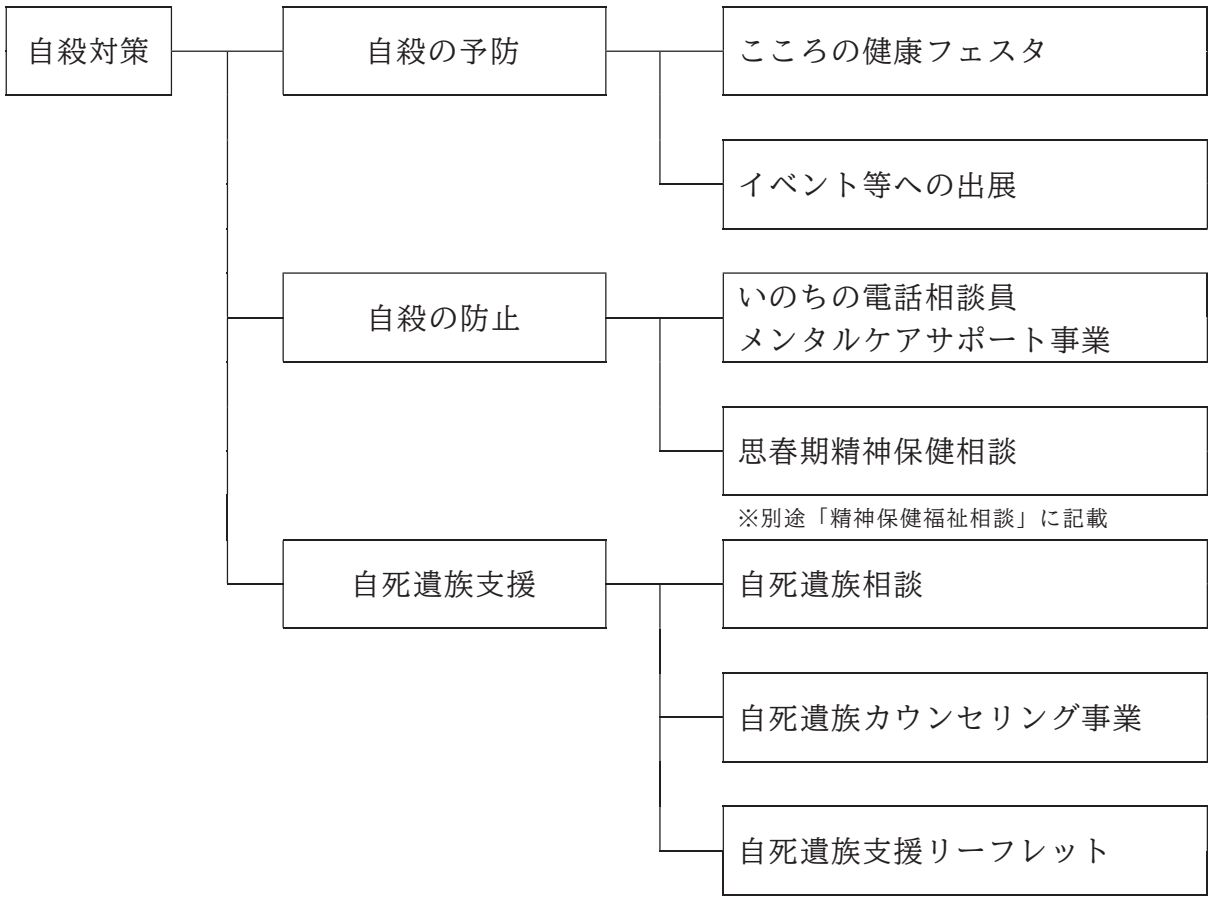
| | | | |
|---|---|---|---|
| 総 会 | ３月１８日 | 【内容】<br>(1)議決可否同数における会則変更への議決<br>(2)名古屋市精神保健福祉センターの会長および事務局としての役割終結にかかる議決<br>(3)「令和４年度 愛知デイ・ケア実施施設交流会の総会開催」における意見聴取(アンケート)結果報告および今後の運営方針に関する協議<br>(4)愛知デイ・ケア実施施設交流会(例会・学習会開催含む)継続への議決<br><br>【結果】<br>(1)、(2)、(4)について賛成多数により議決され、愛知デイ・ケア実施施設交流会は令和４年度をもって閉会することとなった。 | １１施設 |

# 自殺対策

## 1　趣旨

「自殺の予防」、「自殺の防止」、「自死遺族に対する支援」という３つの視点に立ち、自殺対策として各種事業を実施するもの。大切な人を自死で亡くされたご親族等の社会復帰や二次的な自殺の防止を目的とする「自死遺族相談」を始め、自殺対策に関する普及啓発および情報発信等を行う。

## 2　体系



## 自殺の予防

### 1　「こころの健康フェスタなごや」の開催

(1) 趣旨

市民に対しこころの健康づくりと、精神疾患への正しい理解の促進を目的にイベントを開催するもの。平成24年度から実施している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために令和元年度は中止、令和２年度からはオンラインで実施をした。令和４年度は、3年ぶりに会場で開催した。

(2) 実績

ア 日時：令和５年３月１９日(日)　１０時～１６時

イ 会場：オアシス21

ウ 来場者数：６９５名

エ 内容

| 項　　目 | 内　　容 |
|---|---|
| ステージ企画 | ◎ヒーローと考えよう、”こころの健康“トークショー<br>＜出演者＞<br>アニメ「シキザクラ」出演声優<br>野田　雄大　氏　茉白　実歩　氏<br>精神科医　藤野　智哉　氏<br>ゲートキーパー　山本　秀樹　氏<br><br>◎シキザクラ　オリジナルコラボショー・ヒーローショー<br><br>◎名古屋市いのちの支援啓発ソング『Dear my』ライブステージ<br>＜出演者＞<br>シンガーソングライター　心悠（みゆ）氏<br>JSDA公認インストラクター　AIKO　氏　他 |
| フロア企画 | ◎ゲートキーパー普及啓発ブース（協力：愛知いのちの電話協会）<br>◎”こころと体のセルフケア”コーナー |

### 2　イベント等への出展

(1)「スマイル！こころの絆創膏デー2022オンラインイベント」参加

子ども･若者向けイベント「スマイル！こころの絆創膏デー2022オンラインイベント」（健康福祉局健康増進課主催）の相談機関紹介コンテンツに当センターの紹介を掲載。（配信期間　令和4年11月1日～令和4年12月23日）

## 自殺の防止

### 1　いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業

(1) 趣旨

社会福祉法人愛知いのちの電話協会の電話相談員を対象として、臨床心理士による相談を実施するもの。

(2) 概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 「いのちの電話相談員メンタルケアサポート事業」 |
| 実 施 日 | 毎月第3火曜日の14時～15時（8月はなし） |
| 担　　当 | 非常勤の特定相談員(臨床心理士) |

(3) 実績

相談件数

| 実件数 | 延件数 |
|---|---|
| 11 | 11 |

## 2　思春期精神保健相談

※ 別途、P46-47「精神保健福祉相談（思春期精神保健相談）」に記載

# 自死遺族に対する支援

## 1　自死遺族相談

(1) 概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 「自死遺族相談」 |
| 実 施 日 | 毎月第3火曜日の10時～12時、予約制 |
| 担　　当 | 非常勤の特定相談員(臨床心理士)、常勤の精神保健福祉相談員、保健師 |

(2) 実績

相談件数

| | 実件数 | 延件数 |
|---|---|---|
| 男　性 | 3 | 3 |
| 女　性 | 8 | 9 |
| 計 | 11 | 12 |

来所経路

| 自　発 | | | | | | 紹　介 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | インターネット | 広　報 | パンフレット等 | 知人・家族の勧め | そ の 他 | | |
| 11 | 6 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 11 |

自死者との関係

| 夫 | 妻 | 父 | 母 | 息子 | 娘 | 兄弟姉妹 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 11 |

初回相談時の処遇

| 病院・診療所を紹介 | その他の機関を紹介 | 終結 | 自死遺族カウンセリング | 継続 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 4 | 1 | 5 | 1 | 11 |

## 2　自死遺族カウンセリング事業

(1) 概要

自死遺族相談を通じて、継続的なカウンセリングが必要と認められた方について、名古屋大学心の発達支援研究実践センター心理発達相談室、名古屋市立大学医療心理センター臨床心理相談室、金城学院大学心理臨床相談室及び中京大学臨床心理相談室において、臨床心理士によるカウンセリングを実施するもの。

(2) 実績

相談件数

| | 実件数 | 延件数 |
|---|---|---|
| 男　性 | 0 | 0 |
| 女　性 | 6 | 61 |
| 計 | 6 | 61 |

## 3　自死遺族関連リーフレット

(1) 趣旨

大切な人を自死で亡くされた方はさまざまな心情を抱えながら生活している。遺族の方の心の負担軽減及び支援、遺族の心情などについて理解を深めることを目的として、自死遺族に関連するリーフレットを発行するもの。

(2) 実績

令和４年度は、自死遺族向けリーフレットを改訂し、関係機関や斎場等へ送付した。

## うつ病の方を対象とした就労支援関連事業

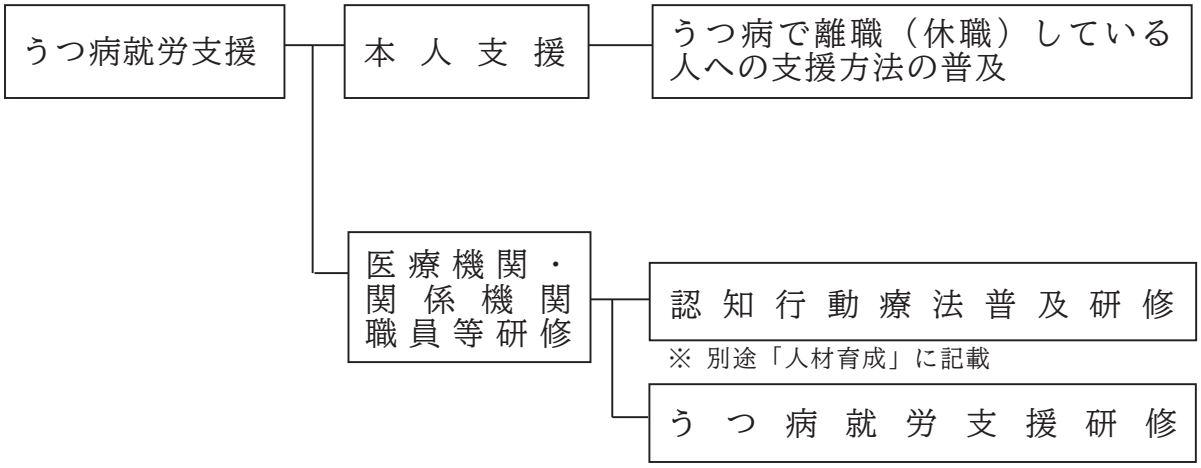
### 1　趣旨

うつ病等により休職・離職している方の復職・再就職を支援する本人向けのプログラムの普及や、支援者である医療機関等の関係機関を対象とした研修等を行なうもの。

### 2　概況

令和４年度は、認知行動療法普及研修とうつ病就労支援研修を実施した。

### 3　体系




### うつ病で離職（休職）している人への支援方法の普及

#### 1　趣旨

当センターにおいて実施してきた、うつ病等で離職（休職）している人を対象としたリワーク（復職）支援について、取組内容をまとめたものを一般に公開し、知識・技術の普及を図るもの。

#### 2　実績

(1)　「ここらぼ版うつ病リワークプログラムのススメ」の普及

当センターで平成20年度～平成22年度まで実施した「うつ病ワークデザインコース」と平成23年度に実施した「うつ病ワークステップコース」の取組みをまとめた冊子「ここらぼ版うつ病リワークプログラムのススメ-名古屋市精神保健福祉センターの実践から-」を市公式ウェブサイトに掲載した。

(2)　「ここらぼにおける『リワーク支援プログラム』のまとめ」の普及

当センターで平成24年度～令和元年度まで実施した「リワーク支援プログラム」の取組みをまとめた冊子「ここらぼにおける『リワーク支援プログラム』のまとめ」を市公式ウェブサイトに掲載した。

## 認知行動療法普及研修

※ 別途、P33「人材育成（認知行動療法普及研修）」に記載

## うつ病就労支援研修

### 1　趣旨

当センターでは、平成20年度からうつ病で離職（休職）している人を対象としたデイ・ケア等のリワーク支援プログラムを実施してきた。これまでの取組によって得られた知識・技術の普及を図るとともに、民間の施設等におけるうつ病の就労支援に関する取組みを促進するために研修を行うもの。

令和４年度は、愛知デイ・ケア実施施設交流会の学習会と併せて実施した。

### 2　実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 名古屋市内の医療機関等で精神科医療及び相談等に従事する関係職員（医師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、保健師、看護師等）<br>保健センター保健予防課 精神保健福祉相談員・保健師等<br>障害者基幹相談支援センター職員<br>雇用機関関係職員<br>その他関係機関職員 |
| 実　施　日 | ３月１８日 |
| 実施方法 | オンライン開催 |
| 内　　容 | ○「院内におけるプログラムの取り組みについて」<br>講師：平安通クリニック<br>作業療法士　　青井 陽子 氏<br>精神保健福祉士　永田 朝美 氏<br><br>○「プログラム利用を通して得たもの」<br>報告：ショートケア・ナイトケア利用者 |
| 参　　加 | ２２名 |

# 精神医療審査会の事務

## 1　趣旨

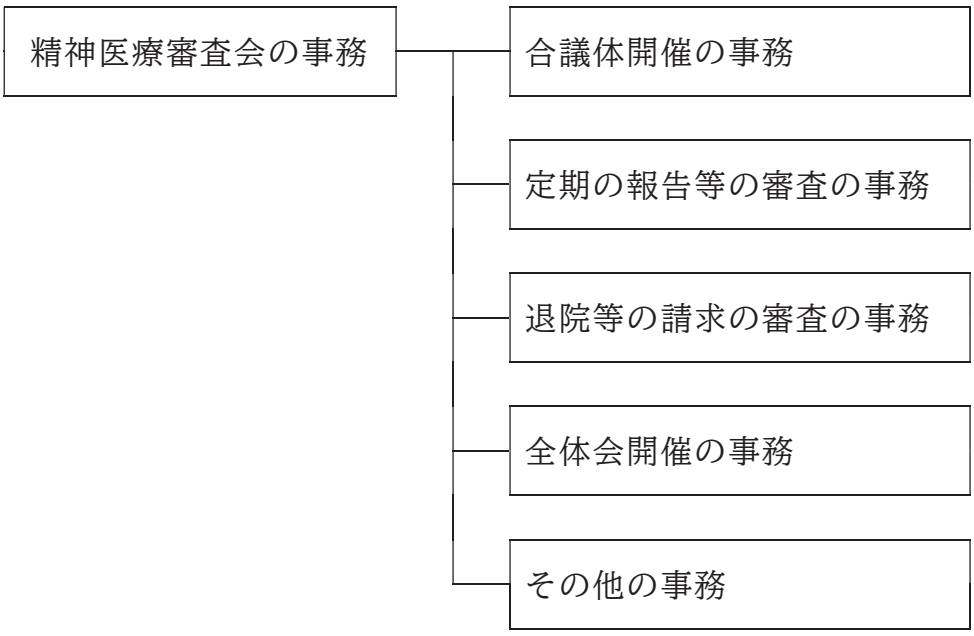
精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神科病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために設置されたものである。

精神医療審査会の審査に関する事務の専門性に配慮し審査の客観性・独立性の一層の確保を図るため、開催事務及び審査の遂行上必要な調査その他精神医療審査会の審査に関する事務は、本市の精神保健福祉主管部局ではなく精神保健福祉センターにおいて行うものとする。

## 2　概況

平成11年の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（以下「精神保健福祉法」という。）の改正により、平成14年度から精神医療審査会の事務局としての業務は精神保健福祉センターで行うこととなっている。平成16年度から、合議体数を3から4に増やすとともに、平成22年度からは予備委員を設置し、審査の充実を図っている。また、平成25年度から、退院等の請求受付窓口が主管課より移管され、業務の迅速化をすすめている。

## 3　体系



## 合議体開催の事務

### 1　合議体の構成

4合議体が設置されている。各合議体の委員数は下表の通り。

| 区　分 | 委　員　区　分 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 医療委員 | 法律家委員 | 有識者委員 | |
| 第 1 合 議 体 | 3名 | 1名 | 1名 | 5名 |
| 第 2 合 議 体 | 3名 | 1名 | 1名 | 5名 |
| 第 3 合 議 体 | 3名 | 1名 | 1名 | 5名 |
| 第 4 合 議 体 | 3名 | 1名 | 1名 | 5名 |
| 予 備 委 員 | 4名 | 4名 | 4名 | 12名 |
| 計 | 16名 | 8名 | 8名 | 32名 |

### 2　開催回数

1合議体8回開催で、合計32回開催された。

### 3　会議の公開

会議の開催（名称、日時、場所、議題、非公開の理由、照会先等）及び会議の概要（名称、日時、場所、議題、審査件数、出席者数、非公開の理由、照会先）を公表している。

## 定期の報告等の審査の事務

### 定期の報告等の審査結果

| 書類種別 | 審査件数 | 審査結果 | |
|---|---|---|---|
| 措置入院者の定期病状報告書（再審査を要したもの） | 44<br>(2) | 現在の入院形態での入院適当 | 43 |
| | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 |
| | | 報告を求める | 0 |
| | | 入院の継続は不要 | 0 |
| | | 審査中 | 1 |
| 医療保護入院者の定期病状報告書（再審査を要したもの） | 956<br>(23) | 現在の入院形態での入院適当 | 951 |
| | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 |
| | | 報告を求める | 0 |
| | | 入院の継続は不要 | 0 |
| | | 審査中 | 5 |
| 医療保護入院者の入院届（再審査を要したもの） | 2,683<br>(109) | 現在の入院形態での入院適当 | 2,672 |
| | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 |
| | | 報告を求める | 0 |
| | | 入院の継続は不要 | 1 |
| | | 審査中 | 10 |
| 総件数（再審査を要したもの） | 3,683<br>(134) | 現在の入院形態での入院適当 | 3,667 |
| | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 |
| | | 報告を求める | 0 |
| | | 入院の継続は不要 | 1 |
| | | 審査中 | 16 |

## 退院等の請求の審査の事務

### 退院等の請求の審査結果

| 種別 | 入院形態 | 請求件数 | 審査件数 | 審査結果 | | 取下件数 | 要件消失 | 継続件数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 退院請求 | 措置 | 16 | 9 | 現在の入院形態での入院適当 | 7 | 3 | 2 | 2 |
| | | | | 他の入院形態への移行が適当 | 2 | | | |
| | | | | 入院の継続は不要 | 0 | | | |
| | 医療保護 | 89 | 57 | 現在の入院形態での入院適当 | 57 | 24 | 6 | 6 |
| | | | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 | | | |
| | | | | 入院の継続は不要 | 0 | | | |
| | 任意 | 1 | 0 | 現在の入院形態での入院適当 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | 他の入院形態への移行が適当 | 0 | | | |
| | | | | 入院の継続は不要 | 0 | | | |
| | 小計 | 106 | 66 | 現在の入院形態での入院適当 | 64 | 28 | 8 | 8 |
| | | | | 他の入院形態への移行が適当 | 2 | | | |
| | | | | 入院の継続は不要 | 0 | | | |
| 処遇改善請求 | 措置 | 5 (4) | 4 (4) | 処遇は適当 | 4 | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) |
| | | | | 処遇は不適当 | 0 | | | |
| | 医療保護 | 30 (26) | 17 (16) | 処遇は適当 | 17 | 10 (7) | 0 (0) | 3 (3) |
| | | | | 処遇は不適当 | 0 | | | |
| | 任意 | 0 (0) | 0 (0) | 処遇は適当 | 0 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | | | | 処遇は不適当 | 0 | | | |
| | 小計 | 35 (30) | 21 (20) | 処遇は適当 | 21 | 10 (7) | 0 (0) | 4 (3) |
| | | | | 処遇は不適当 | 0 | | | |
| 合計 | | 141 (30) | 87 (20) | | | 38 (7) | 8 (0) | 12 (3) |

※「請求件数」には前年度からの継続件数4件を含まない。
※( )内は、「処遇改善請求」のうち、「退院請求」との併請求を再掲。

## 全体会開催の事務

1　**開催日時**　令和４年４月８日

2　**開催場所**　精神保健福祉センター研修室

3　**出席者数**　審査会委員19名

4　**その他**　傍聴者なし

## その他の事務

令和４年４月２２日に市内精神科病院の事務担当者を対象とした、精神保健福祉関係事務連絡会議を開催した。出席者数は15病院15名。

# 精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）の判定

## 1　趣旨

精神保健福祉センターは、精神保健福祉法第45条第1項の規定による精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務及び障害者総合支援法第52条第1項に規定する自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行うものとする。

## 2　概況

平成11年の精神保健福祉法の改正にともない、平成14年度から精神障害者通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する判定事務を精神保健福祉センターで行うこととなった。平成18年度からは、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）に基づく自立支援医療（精神通院医療）の判定業務を行っている。精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院医療）申請のうち、診断書添付の申請については判定委員により、また年金証書の写し添付の申請については各年金事務所に照会の上、判定を行った。

## 3　体系

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の判定
- 精神障害者保健福祉手帳の判定
- 自立支援医療(精神通院医療)の判定

## 精神障害者保健福祉手帳

### 1　令和４年度申請状況

| | 診断書 | 年金証書 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 当該年度における申請者数<br>（ ）内は更新者数再掲 | 12,455<br>(8,789) | 5,692<br>(5,345) | 18,147<br>(14,134) |

### 2　精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

3月末現在

| 年度／区分 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1級 | 1,472 | 1,591 | 1,679 | 1,793 | 1,895 |
| 2級 | 16,161 | 17,233 | 18,167 | 19,851 | 21,696 |
| 3級 | 8,062 | 8,788 | 9,274 | 9,723 | 10,322 |
| 計 | 25,695 | 27,612 | 29,120 | 31,367 | 33,913 |

## 3　承認件数

| 区分 | | 千種 | 東 | 北 | （楠） | 西 | （山田） | 中村 | 中 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規 | 1級 | 9 | 4 | 6 | 3 | 9 | 4 | 5 | 2 |
| | 2級 | 127 | 44 | 91 | 38 | 57 | 39 | 120 | 81 |
| | 3級 | 130 | 55 | 97 | 26 | 79 | 47 | 101 | 83 |
| | 小計 | 266 | 103 | 194 | 67 | 145 | 90 | 226 | 166 |
| 等級変更 | 1級 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| | 2級 | 13 | 13 | 13 | 5 | 10 | 2 | 23 | 18 |
| | 3級 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 15 | 14 | 15 | 5 | 12 | 4 | 23 | 20 |
| 更新 | 1級 | 69 | 15 | 44 | 20 | 23 | 17 | 44 | 31 |
| | 2級 | 710 | 248 | 545 | 216 | 322 | 269 | 541 | 290 |
| | 3級 | 252 | 106 | 210 | 57 | 143 | 112 | 219 | 143 |
| | 小計 | 1031 | 369 | 799 | 293 | 488 | 398 | 804 | 464 |
| 市外からの転入 | 1級 | 1 | 2 | 5 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 |
| | 2級 | 30 | 15 | 27 | 9 | 19 | 19 | 37 | 35 |
| | 3級 | 15 | 14 | 18 | 6 | 12 | 8 | 27 | 23 |
| | 小計 | 46 | 31 | 50 | 17 | 35 | 29 | 66 | 60 |
| 計 | 1級 | 81 | 21 | 57 | 25 | 38 | 25 | 51 | 37 |
| | 2級 | 880 | 320 | 676 | 268 | 408 | 329 | 721 | 424 |
| | 3級 | 397 | 176 | 325 | 89 | 234 | 167 | 347 | 249 |
| | 合計 | 1,358 | 517 | 1,058 | 382 | 680 | 521 | 1,119 | 710 |

| 区分 | | 昭和 | 瑞穂 | 熱田 | 中川 | （富田） | 港 | （南陽） | 南 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規 | 1級 | 3 | 8 | 6 | 9 | 5 | 2 | 2 | 11 |
| | 2級 | 73 | 62 | 63 | 104 | 68 | 98 | 12 | 91 |
| | 3級 | 58 | 72 | 54 | 108 | 63 | 97 | 22 | 103 |
| | 小計 | 134 | 142 | 123 | 221 | 136 | 197 | 36 | 205 |
| 等級変更 | 1級 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 2級 | 12 | 16 | 4 | 14 | 8 | 10 | 3 | 11 |
| | 3級 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 13 | 17 | 4 | 15 | 9 | 10 | 3 | 11 |
| 更新 | 1級 | 30 | 41 | 25 | 51 | 33 | 48 | 16 | 73 |
| | 2級 | 319 | 388 | 262 | 579 | 421 | 527 | 136 | 649 |
| | 3級 | 185 | 165 | 122 | 210 | 126 | 216 | 38 | 240 |
| | 小計 | 534 | 594 | 409 | 840 | 580 | 791 | 190 | 962 |
| 市外からの転入 | 1級 | 1 | 1 | 2 | 4 | 2 | 1 | 2 | 4 |
| | 2級 | 15 | 15 | 12 | 30 | 7 | 20 | 2 | 28 |
| | 3級 | 11 | 13 | 7 | 15 | 6 | 3 | 3 | 15 |
| | 小計 | 27 | 29 | 21 | 49 | 15 | 24 | 7 | 47 |
| 計 | 1級 | 35 | 51 | 33 | 65 | 41 | 51 | 20 | 88 |
| | 2級 | 419 | 481 | 341 | 727 | 504 | 655 | 153 | 779 |
| | 3級 | 254 | 250 | 183 | 333 | 195 | 316 | 63 | 358 |
| | 合計 | 708 | 782 | 557 | 1,125 | 740 | 1,022 | 236 | 1,225 |

| 区分 | | 守山 | （志段味） | 緑 | （徳重） | 名東 | 天白 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規 | 1級 | 18 | 13 | 10 | 7 | 10 | 14 | 160 |
| | 2級 | 109 | 25 | 94 | 59 | 104 | 109 | 1,668 |
| | 3級 | 97 | 13 | 117 | 65 | 115 | 127 | 1,729 |
| | 小計 | 224 | 51 | 221 | 131 | 229 | 250 | 3,557 |
| 等級変更 | 1級 | 4 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 25 |
| | 2級 | 10 | 3 | 16 | 17 | 17 | 25 | 263 |
| | 3級 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 小計 | 15 | 4 | 16 | 19 | 21 | 25 | 290 |
| 更新 | 1級 | 88 | 29 | 39 | 30 | 61 | 56 | 883 |
| | 2級 | 676 | 142 | 546 | 364 | 700 | 681 | 9,531 |
| | 3級 | 200 | 41 | 202 | 155 | 289 | 289 | 3,720 |
| | 小計 | 964 | 212 | 787 | 549 | 1,050 | 1,026 | 14,134 |
| 市外からの転入 | 1級 | 4 | 5 | 6 | 1 | 5 | 5 | 63 |
| | 2級 | 27 | 10 | 23 | 22 | 37 | 35 | 474 |
| | 3級 | 18 | 2 | 11 | 7 | 16 | 15 | 265 |
| | 小計 | 49 | 17 | 40 | 30 | 58 | 55 | 802 |
| 計 | 1級 | 114 | 48 | 55 | 40 | 80 | 75 | 1,131 |
| | 2級 | 822 | 180 | 679 | 462 | 858 | 850 | 11,936 |
| | 3級 | 316 | 56 | 330 | 227 | 420 | 431 | 5,716 |
| | 合計 | 1,252 | 284 | 1,064 | 729 | 1,358 | 1,356 | 18,783 |

※承認件数は、令和４年度中に承認のあったものの新規、等級変更、更新、転入の承認件数
※（　）内は、支所名

## 自立支援医療（精神通院医療）

障害者総合支援法の施行により、それまでの精神保健福祉法第 32 条の通院医療費公費負担制度は、平成 18 年 4 月 1 日より、障害者総合支援法（制度開始時は障害者自立支援法）第 52 条に基づく自立支援医療（精神通院医療）に移行した。

在宅精神障害者が必要な医療を受けやすくするため、通院医療を受ける場合の一部負担金を公費で助成するという制度の目的に変更はないが、１）原則として医療費の 1 割負担、２）所得区分による月額負担上限額の設定、３）利用する医療機関は所在地の都道府県または指定都市の指定医療機関であることが必要、などが変更となった。

### 1　区別申請者の状況

| 区　分 | | 千種 | 東 | 北 | （楠） | 西 | （山田） | 中村 | 中 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新　規 | 申請者数 | 644 | 324 | 631 | 201 | 470 | 239 | 716 | 500 |
| | 承認者数 | 643 | 324 | 631 | 201 | 470 | 239 | 716 | 499 |
| | 不承認者数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 市　外<br>転　入 | 申請者数 | 65 | 40 | 65 | 16 | 50 | 41 | 91 | 82 |
| | 承認者数 | 65 | 40 | 65 | 16 | 50 | 41 | 91 | 82 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再認定 | 申請者数 | 2,789 | 1,163 | 2,550 | 824 | 1,760 | 1,274 | 2,888 | 1,548 |
| | 承認者数 | 2,789 | 1,163 | 2,549 | 824 | 1,760 | 1,274 | 2,888 | 1,548 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請 | 申請者数 | 535 | 193 | 447 | 191 | 313 | 150 | 545 | 289 |
| | 承認者数 | 535 | 193 | 447 | 191 | 313 | 150 | 545 | 289 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変更届 | 申請者数 | 689 | 339 | 606 | 170 | 390 | 299 | 780 | 476 |
| | 承認者数 | 689 | 339 | 606 | 170 | 390 | 299 | 780 | 476 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再交付 | 申請者数 | 101 | 42 | 90 | 32 | 75 | 38 | 121 | 70 |
| | 承認者数 | 101 | 42 | 90 | 32 | 75 | 38 | 121 | 70 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請<br>進達有 | 申請者数 | 61 | 26 | 50 | 17 | 27 | 15 | 58 | 21 |
| | 承認者数 | 61 | 24 | 49 | 17 | 27 | 14 | 58 | 20 |
| | 不承認者数 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 区　分 | | 昭和 | 瑞穂 | 熱田 | 中川 | （富田） | 港 | （南陽） | 南 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新　規 | 申請者数 | 400 | 469 | 262 | 571 | 350 | 448 | 111 | 550 |
| | 承認者数 | 399 | 469 | 262 | 571 | 349 | 448 | 111 | 550 |
| | 不承認者数 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 市　外<br>転　入 | 申請者数 | 54 | 42 | 32 | 64 | 25 | 35 | 11 | 49 |
| | 承認者数 | 54 | 42 | 32 | 64 | 25 | 35 | 11 | 49 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再認定 | 申請者数 | 1,748 | 1,821 | 1,256 | 2,720 | 1,611 | 2,275 | 553 | 2,755 |
| | 承認者数 | 1,747 | 1,821 | 1,255 | 2,718 | 1,611 | 2,275 | 553 | 2,754 |
| | 不承認者数 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請 | 申請者数 | 329 | 336 | 321 | 521 | 376 | 467 | 95 | 460 |
| | 承認者数 | 329 | 336 | 321 | 521 | 376 | 467 | 95 | 460 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変更届 | 申請者数 | 430 | 494 | 409 | 537 | 276 | 520 | 125 | 524 |
| | 承認者数 | 430 | 494 | 409 | 537 | 276 | 520 | 125 | 524 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再交付 | 申請者数 | 55 | 43 | 58 | 95 | 59 | 92 | 18 | 114 |
| | 承認者数 | 55 | 43 | 58 | 95 | 59 | 92 | 18 | 114 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請<br>進達有 | 申請者数 | 34 | 33 | 19 | 44 | 48 | 36 | 13 | 28 |
| | 承認者数 | 34 | 33 | 19 | 42 | 46 | 34 | 13 | 26 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 区　分 | | 守山 | （志段味） | 緑 | （徳重） | 名東 | 天白 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新　規 | 申請者数 | 535 | 97 | 447 | 355 | 602 | 695 | 9,617 |
| | 承認者数 | 535 | 97 | 446 | 354 | 601 | 695 | 9,610 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 7 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 市　外<br>転　入 | 申請者数 | 61 | 17 | 60 | 39 | 73 | 81 | 1,093 |
| | 承認者数 | 61 | 17 | 60 | 39 | 73 | 81 | 1,093 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再認定 | 申請者数 | 2,306 | 493 | 2,456 | 1,944 | 2,816 | 2,896 | 42,446 |
| | 承認者数 | 2,306 | 492 | 2,456 | 1,944 | 2,816 | 2,895 | 42,438 |
| | 不承認者数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 8 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請 | 申請者数 | 435 | 101 | 527 | 402 | 799 | 657 | 8,489 |
| | 承認者数 | 435 | 101 | 527 | 402 | 799 | 657 | 8,489 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変更届 | 申請者数 | 612 | 131 | 550 | 312 | 502 | 813 | 9,984 |
| | 承認者数 | 612 | 131 | 550 | 312 | 502 | 813 | 9,984 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 再交付 | 申請者数 | 71 | 9 | 65 | 40 | 117 | 109 | 1,514 |
| | 承認者数 | 71 | 9 | 65 | 40 | 117 | 109 | 1,514 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 変　更<br>申　請<br>進達有 | 申請者数 | 42 | 9 | 27 | 31 | 60 | 69 | 768 |
| | 承認者数 | 42 | 9 | 25 | 27 | 59 | 66 | 745 |
| | 不承認者数 | 0 | 0 | 2 | 4 | 1 | 3 | 23 |
| | 保留その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※（　）内は、支所名

## 2　自立支援医療（精神通院医療）受給者証所持者数の推移

3月末現在

| 年　度 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 所持者数 | 38,268 | 41,124 | 48,320 | 48,485 | 51,345 |

# 依存症対策

## 1　趣旨

当センターは、平成30年7月より依存症相談拠点として、依存症相談窓口を開設し、依存症に関連した各種事業を実施している。

主な事業内容としては、依存症専用電話を設置し電話相談を行うと共に、従来からある特定相談を充実させ、依存症のご本人やご家族等の面接相談を行っている。

また、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修を実施し、パンフレットの発行や講演会の開催等依存症に関する普及啓発を行うなど、依存症のご本人やご家族への支援の充実を図っている。

## 2　主な事業内容

(1) 関係機関との連携会議
- アルコール問題関係者連絡協議会の開催
- 薬物問題関係機関連絡会議の開催

(2) 依存症のご本人やご家族等を対象とした相談
- 来所相談（特定相談・一般相談）
- 電話相談

(3) 依存症支援者研修
- 依存症基礎講座の開催
- ギャンブル問題関係者研修の開催

(4) 依存症に関する普及啓発および情報発信
- 各種リーフレット、広報用カード等の配布
- 名古屋市嗜癖問題支援機関リストの作成・配布
- アディクション・セッションの開催
- 依存症講演会の開催

(5) 本人支援
- NAT-G（なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム）の実施

(6) 家族支援
- 依存症家族教室（アルコール・薬物・ギャンブル問題）の開催
- 依存症家族のつどいの開催

## 関係機関との連携会議

### 1　アルコール問題関係者連絡協議会

(1) 趣旨

依存症患者等（アルコール問題）に対する包括的な支援を実施するため、行政や医療、福祉、司法を含めた関係機関が密接な連携と、地域におけるアルコール依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整等を図るため、協議の場を設置する。

（2）実績

| | | |
|---|---|---|
| 構　成　員 | ① 名古屋市内依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関の関係職員<br>② 市内アルコール問題を取り扱う自助団体当事者<br>③ 市内保健福祉センター（代表区)精神保健福祉相談員<br>④ 名古屋市健康福祉局健康増進課職員<br>⑤ 名古屋市精神保健福祉センター職員<br>⑥ その他アルコール問題を取り扱う関係機関 | |
| 実　施　日<br>実施方法<br>参　　加 | 第1回目<br>（会場開催） | 令和４年７月１４日<br>会場：名古屋市精神保健福祉センター<br>１５名（８機関 ） |
| | 第2回目<br>（書面開催） | 令和５年３月<br>１０機関 |
| 内　　容 | ① 身体科治療機関との連携における現状と課題<br>② 地域における身体科治療機関との連携や支援体制の構築・推進方法について<br>③ 本会議を実施していくための意見交換 | |

## ２　薬物問題関係機関連絡会議

（1）趣旨

薬物乱用が社会問題化している昨今、薬物問題に関わる関係機関の連絡会議を開催し、薬物問題への取り組みについて相互の理解を深めるとともに連携上の課題について検討し、ネットワークづくりをめざすもの。

（2）実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 県内保健所、精神科医療機関、東海北陸厚生局麻薬取締部、名古屋矯正管区、名古屋保護観察所、名古屋少年鑑別所、中部地方更生保護委員会、愛知県健康医務部医務課こころの健康推進室、愛知家族会、愛知県弁護士会、愛知自啓会、岡崎自啓会、名古屋ダルク、三河ダルク、愛知県生活衛生部医薬安全課、名古屋市健康福祉局健康増進課、名古屋市健康福祉局環境薬務課、名古屋市スポーツ市民局男女平等参画推進室、等 |
| 実施主体 | 愛知県精神保健福祉センター及び名古屋市精神保健福祉センターの共催 |
| 実施方法 | オンラインとのハイブリット開催（会場：名古屋市総合社会福祉会館） |
| 実　施　日 | ２月２８日 |
| 内　　容 | 1 関係機関からの情報提供・情報交換<br>2 話題提供「信頼と不信～当事者の体験から～」<br>話題提供者：三河ダルク代表　松浦良昭　氏<br>3 講演「アディクション問題の背景としての信頼障害について」<br>講師：神奈川県立精神医療センター副院長　小林桜児　氏<br>4意見交換「テーマ：より良い支援関係を作るために」<br>助言者：小林桜児　氏 |
| 参　　加 | ６０名（４１機関） |

## 依存症のご本人やご家族などを対象とした相談

### 1　趣旨

アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する相談事業を実施。平成29年度まで「薬物リハビリテーション相談」として実施していたが、平成30年7月より依存症相談拠点として「依存症に関する専門相談窓口」を設置。また平成30年6月より、自助グループ当事者によるピア相談も実施。併せて、依存症の特性に応じて、令和元年度より司法書士による債務相談を開始した。

### 2　相談実施状況

(1) 特定相談・ピア相談概要

| | |
|---|---|
| 実　施　日 | 毎月の日程　※ 各日予約制<br>**＜依存症に関するご相談＞**<br>●14時～16時　第2月曜日（奇数月）<br>●14時～16時　第3月曜日<br>●14時～16時　第1水曜日（偶数月）<br>●10時～12時　第2水曜日<br>●14時～16時　第2水曜日（偶数月）<br>●14時～16時　第4水曜日<br>●14時30分～16時30分　第1金曜日<br>**＜債務整理相談＞**<br>●14時～16時　第2金曜日 |
| 担　　当 | 非常勤の特定相談員（医師、精神保健福祉士、ピア相談員、司法書士） |

相談実績

① 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

| | 実件数 | 延件数 |
|---|---|---|
| 男　性 | 37 | 37 |
| 女　性 | 39 | 39 |
| 計 | 76 | 76 |

② 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

| | ～20歳 | 21～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51歳～60歳 | 61歳～ | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男　性 | 1 | 4 | 7 | 12 | 7 | 5 | 1 | 37 |
| 女　性 | 0 | 3 | 2 | 12 | 10 | 12 | 0 | 39 |
| 計 | 1 | 7 | 9 | 24 | 17 | 17 | 1 | 76 |

③ 来所経路（初回来所時）

| 自　発 | | | | | 紹　介 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 保健センター | インターネット | その他 | 不　明 | | 保健センター | その他 | |
| 75 | 4 | 51 | 20 | 0 | 1 | 0 | 1 | 76 |

④ 初回相談時の来所者（初回来所時）

| 家族のみ | 相談対象者(本人のみ) | 本人と家族 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 46 | 15 | 14 | 1 | 76 |

⑤ 依存対象別相談件数　（件数には重複使用を含む）

| アルコール | 覚せい剤 | 大　麻<br>(マリファナ) | 危険ドラッグ | 処方・<br>市販薬 | ギャンブル | 買い物 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 2 | 1 | 2 | 3 | 45 | 2 |
| 性依存 | 摂食障害 | タバコ | インターネット | ゲーム | その他 | |
| 3 | 1 | 0 | 2 | 4 | 9 | |

⑥ 初回相談時の処遇（件数には重複使用を含む）

| 病院･診療所を紹介 | 自助グループを紹介 | センターのみで<br>終結・助言 | その他 |
|---|---|---|---|
| 31 | 35 | 39 | 9 |

⑦ ピア相談内訳

| 区分 | 断酒会 | ダルク | ギャマノン | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 開催回数 | 12 | 12 | 6 | 30 |
| 相談件数 | 8 | 13 | 6 | 27 |

(2)　一般来所相談実績

当センター常勤職員の保健師、精神保健福祉相談員、依存症相談員が実施

相談実績

① 相談件数（相談来所者の男女別内訳）

| | 実件数 | 延件数 |
|---|---|---|
| 男　性 | 43 | 70 |
| 女　性 | 8 | 8 |
| 計 | 51 | 78 |

② 相談対象者の男女別年齢構成（初回来所時）

| | ～20歳 | 21～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51歳～60歳 | 61歳～ | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男　性 | 0 | 9 | 14 | 13 | 6 | 1 | 0 | 43 |
| 女　性 | 0 | 2 | 1 | 1 | 3 | 0 | 1 | 8 |
| 計 | 0 | 11 | 15 | 14 | 9 | 1 | 1 | 51 |

③ 来所経路（初回来所時）

| 自　発 | | | | | 紹　介 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 保健ｾﾝﾀｰ | ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ | その他 | 不　明 | | 保健ｾﾝﾀｰ | その他 | |
| 49 | 1 | 30 | 17 | 1 | 2 | 0 | 2 | 51 |

④ 初回相談時の来所者（初回来所時）

| 家族のみ | 相談対象者(本人のみ) | 本人と家族 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 20 | 24 | 7 | 0 | 51 |

⑤ 依存対象別相談件数　（件数には重複使用を含む）

| アルコール | 覚せい剤 | 大　麻<br>(マリファナ) | 危険ドラッグ | 処方・<br>市販薬 | ギャンブル | 買い物 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 4 | 0 | 0 | 2 | 33 | 1 |
| 性依存 | 摂食障害 | タバコ | ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ | ゲーム | その他 | |
| 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 | |

⑥ 初回相談時の処遇　（件数には重複使用を含む）

| 病院･診療所を紹介 | 自助グループを紹介 | センターのみで<br>終結・助言 | その他 |
|---|---|---|---|
| 25 | 33 | 22 | 11 |

(3) 依存症相談窓口専用電話

| 区分 | 実人員 | 延人員 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 高齢期 | 社会復帰 | ｱﾙｺｰﾙ | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | ゲーム | 思春期 | 心の健康づくり | 摂食障害 | てんかん | その他 | 計 |
| 計 | 637 | 0 | 0 | 333 | 85 | 341 | 36 | 0 | 0 | 62 | 0 | 202 | 1,059 |

(4) 依存症相談拠点相談件数

| 区　分 | アルコール | 薬物 | ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 相談件数 | 364 | 100 | 445 | 339 | 1,248 |

※特定相談、一般相談、電話相談、文書相談等の合計件数を記載

## 依存症支援者研修

### 1 依存症基礎講座

(1) 趣旨

依存症問題に関わる保健センター職員を始めとする関係機関職員を対象に、依存症の知識を深め、相談技術の向上、関係機関との連携による支援の視点を学ぶことを目的として研修を開催するもの。

（2）実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 依存症問題に関わる下記の市域関係機関職員<br>・各区保健センター<br>・各区福祉課、民生子ども課保護係、支所区民福祉課<br>・障害者基幹相談支援センター<br>・いきいき支援センター等 |
| 参加延べ人数 | ５３名 |
| ＜第１回＞ | |
| 実 施 日 | １２月２日 |
| 実施方法 | オンラインとのハイブリッド開催<br>（会場：名古屋市精神保健福祉センター） |
| 内　　容 | 1「依存症の基礎知識と関わり方を学ぶ」<br>講師：刈谷アディクションセンター長　菅沼　直樹　氏<br>2「自助グループ活動から得たもの～当事者視点～」「自助グループから得たもの～当事者家族視点～」<br>講師：愛知県断酒連合会 |
| 参　　加 | ２７名　（会場９名、オンライン１８名） |
| ＜第２回＞ | |
| 実 施 日 | １２月２７日 |
| 実施方法 | オンラインとのハイブリッド開催<br>（会場：名古屋市精神保健福祉センター） |
| 内　　容 | 1「アディクションの捉え方と連携の必要性～ソーシャルワークの必要性～」<br>講師：日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科<br>田中　和彦　氏<br>2「あつた白鳥クリニックでの実践（依存症に関する取り組み）と連携」<br>講師：あつた白鳥クリニック　精神保健福祉士　石井　智康 氏 |
| 参　　加 | ２６名　（会場１３名、オンライン１３名） |

## 2　ギャンブル問題関係者研修

（1）趣旨

ギャンブル問題に関わる職員を対象に、ギャンブル問題について正しく理解し、適切な対応方法を身につけることを目的に研修を実施するもの。

（2）実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 債務の相談機関、精神科医療機関、公営ギャンブル組合及び愛知県遊技協同組合等の団体、健康福祉局健康増進課、障害者基幹相談支援センター保健センター、民生子ども課、支所区民福祉課保護・子ども係、 |
| 実 施 日 | ２月２２日 |
| 実施方法 | オンラインとのハイブリッド開催<br>（会場：名古屋市精神保健福祉センター） |

| | |
|---|---|
| 内　　容 | 講義1「ギャンブル障害への理解と諸問題への必要な支援について」<br>講師：西山クリニック　院長　西山　仁　氏<br>講義2「家族が望む支援とは～家族が知ってほしいこと～」<br>講師：GAM-ANON　えっちゃん　氏<br>講義3「本人が望む支援とは～本人が知ってほしいこと～」<br>講師：GA（GAMBLERS ANONYMOUS）トモ　氏<br>講義4「医療機関での取り組み<br>～集団精神療法における実践と効果について～」<br>講師：あつた白鳥クリニック　臨床心理師/公認心理師　片桐　正教　氏<br>あつた白鳥クリニック　臨床心理師/公認心理師　中島　圭太　氏<br>講義5「行政機関での取り組み～NAT-Gの実践と効果について～」<br>登壇者：名古屋市精神保健福祉センター職員 |
| 参　　加 | ４０名 |

## 依存症に関する普及啓発および情報発信

### 1　依存症相談窓口の普及

(1) 趣旨

依存症のご本人やご家族、支援関係者等を対象に、依存症相談窓口の情報を提供するチラシ（「依存症相談窓口チラシ」）を発行するもの。

(2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「依存症講演会」及び「アディクション・セッション」においても配布を行った。

### 2　依存症リーフレット

(1) 趣旨

依存症の問題に悩んでいるご本人やご家族等を対象として、治療や対応のポイント、自助グループや相談窓口の情報等を掲載したリーフレットを発行するもの。

・「アルコール／薬物／ギャンブル問題でお困りの方へ」
・「依存症って何」

(2) 実績

ご本人ならびにご家族、また各種研修の開催時や会議の場において、関係機関職員向けに配布。併せて、広く市民を対象とし参加者が多い「アディクション・セッション」「依存症講演会」においても配布を行った。

### 3　名古屋市嗜癖問題支援機関リスト

(1) 趣旨

嗜癖問題に関する支援を行っている名古屋市内外の機関・団体の情報を集約しご本人やご家族などに公開し提供することで、支援を必要としている方が適切な支援につながることを目的として作成するもの。

(2) 実績

令和４年度は、関係機関への送付、ホームページでの掲載及び薬物問題関係機関連絡会議、依存症相談の来所者等への配布を行った。

## 4　アディクション・セッション

(1) 趣旨

アルコールや薬物、ギャンブル等いわゆる嗜癖問題からの回復を目指す自助グループや支援機関から「現在に至るまでの体験談」や「アディクションに対する自身の想い」、また「各機関における依存症に関する取り組み」などに関する発表を行うことで、市民に理解を深めていただく機会とする。また、参加機関同士の横のつながりや、今後の支援ネットワーク体制構築の一助とする。

(2) 実績

| | |
|---|---|
| 観覧対象 | 自助グループ等、医療機関、福祉機関、区役所・保健センターなどの機関において嗜癖問題に関わる地域関係職員、ならびに一般市民 |
| 実施日 | １０月７日 |
| 会場 | 名古屋市中村文化小劇場 |
| 内容 | ① 自助グループ及び支援機関からのメッセージ<br>② まとめ講演<br>講師：ひぃりんぐ工房とぽす　臨床心理士　西野　敏夫　氏 |
| 申込団体 | １６団体 |
| 参加 | １０４名 |

## 6　依存症講演会

(1) 趣旨

依存症相談拠点として、依存症についての普及啓発をすすめることを目的として実施するもの。令和４年度は会場開催と、当日の講演内容を後日YouTube配信した。

(2) 実績

| | |
|---|---|
| 対象 | 名古屋市内在住・在勤（学）の依存症に関心のある方 |
| 実施日 | 会場開催：令和４年１１月１２日<br>YouTube配信期間：令和４年１２月１３日～令和５年２月１３日 |
| 内容 | 講演テーマ「広がるアディクション～ゲーム、オンラインカジノ依存の問題を考える～」<br>講師：信田　さよ子　氏（原宿カウンセリングセンター顧問） |
| 参加 | ９９名 |
| YouTube再生回数 | １１９４回 |

## なごやギャンブル障害回復トレーニングプログラム（NAT-G）

### 1　趣旨

自身のギャンブル等（パチンコやパチスロ、競馬、競艇、競輪、オートレースその他の射幸行為）の楽しみ方を改めたいと希望する方が、ギャンブルに頼らない生活の実現を目指し、自分らしい生き方を取り戻すよう援助するもの。

### 2　概要

（1）対象者

①自身のギャンブル等の楽しみ方を改めたい方

②事前面接の結果、本プログラムを受けることが適当と認められる方

（2）実施期間等

ア　頻度　月1回程度、個別または集団で実施

イ　時間　1回につき１～２時間程度

（3）修了基準

第1回～第5回のプログラムに参加された方

＊修了者には「修了証」を配布

（4）費用

無料

（5）内容

| | |
|---|---|
| 第1回 | あなたのギャンブルについて整理してみましょう |
| 第2回 | 引き金から再開にいたる道すじと対処 |
| 第3回 | 再開を防ぐために |
| 第4回 | 私の道しるべ |
| 第5回 | 回復への道のり |
| 第6回 | 【アンコールセッション】回復のために～正直さと仲間～ |

（6）定員

1回につき6名程度

### 3　実績

参加者数（主なギャンブル等の種目別内訳）

| | 主なギャンブル等の種目 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | パチンコ<br>スロット | 競馬 | 競艇 | カジノ | その他 | |
| 実人数 | 11 | 9 | 1 | 4 | 0 | 25 |
| 延人数 | 28 | 29 | 6 | 21 | 0 | 84 |

※うち年度内の初回修了者 6 名

## 依存症家族教室

### 1　趣旨

身近な方のアルコール・薬物・ギャンブルに関する問題でお困りの方を対象に、精神科医師の講話や当事者・家族らの体験談等を通して、依存症についての正しい知識を身につけ理解を深めることを目的とするもの。

### 2　実績

| 第1クール | 実施日 | 内　容 | 講　師 | 参　加 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 6月１７日 | 家族が元気になるために | ひいりんぐ工房とぽす<br>臨床心理士　西野　敏夫　氏 | 29名 |
| 第2回 | 6月２９日 | アルコール・薬物・ギャンブル依存症について | 西山クリニック<br>院長　西山　仁　氏 | 23名 |
| 第3回 | 7月6日 | 本人の体験談 | アルコール・薬物・ギャンブル依存症当事者 | 20名 |
| 第4回 | 7月１９日 | 家族の体験談 | アルコール・薬物・ギャンブル依存症当事者 | 18名 |
| **第2クール** | 実施日 | 内　容 | 講　師 | 参　加 |
| 第1回 | １１月１４日 | アルコール・薬物・ギャンブル依存症について | あつた白鳥クリニック<br>医師　山谷 千尋　氏 | 12名 |
| 第2回 | １１月２５日 | 本人の体験談 | ＡＡ、ＧＡ、ＮＡ | 13名 |
| 第3回 | １２月7日 | 家族の体験談 | 名古屋連合断酒会<br>ナラノン、ギャマノン | 19名 |
| 第4回 | １２月２３日 | 身近な方に伝えたいこと | 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター<br>精神保健福祉士　石上 里美 氏 | 11名 |
| | | | 延べ人数合計 | 145名 |

## 依存症家族のつどい

### 1　趣旨

依存症の問題を抱える方のご家族を対象に、家族相互の交流、情報交換を図ることを目的として開催するもの。

### 2　実績

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 対　象 | 平成30年度以降に、薬物・アルコール・ギャンブルの相談で来所されたご家族 | | | | |
| 会　場 | 名古屋市精神保健福祉センター | | | | |
| 内　容 | CRAFT勉強会と交流会を実施 | | | | |
| 実施日 | | 前期<br>＜第1クール＞ | 参加 | 後期<br>＜第2クール＞ | 参加 |
| | 第1回 | ４月４日 | 7名 | １０月３日 | 8名 |
| | 第2回 | ５月２日 | 11名 | １１月７日 | 8名 |
| | 第3回 | ６月６日 | 11名 | １２月５日 | 4名 |
| | 第4回 | ７月４日 | 9名 | １月１６日 | 14名 |
| | 第5回 | ８月１日 | 7名 | ２月６日 | 12名 |
| | 第6回 | ９月５日 | 10名 | ３月６日 | 13名 |
| | | 前期小計 | 55名 | 後期小計 | 59名 |
| | | | | **延べ人数合計** | **114名** |

# ひきこもり地域支援センター

## 1　趣旨

専門の「ひきこもり支援コーディネーター」を3名配置し、ひきこもりのご本人やご家族等の面接相談を行うとともに、関係機関との連携強化を目的とした会議や関係機関の職員等を対象とした研修や、パンフレットの発行等ひきこもりに関する普及啓発を行い、ひきこもりのご本人やご家族への支援の充実を図るもの。

## 2　概要

（1）名称及び開設

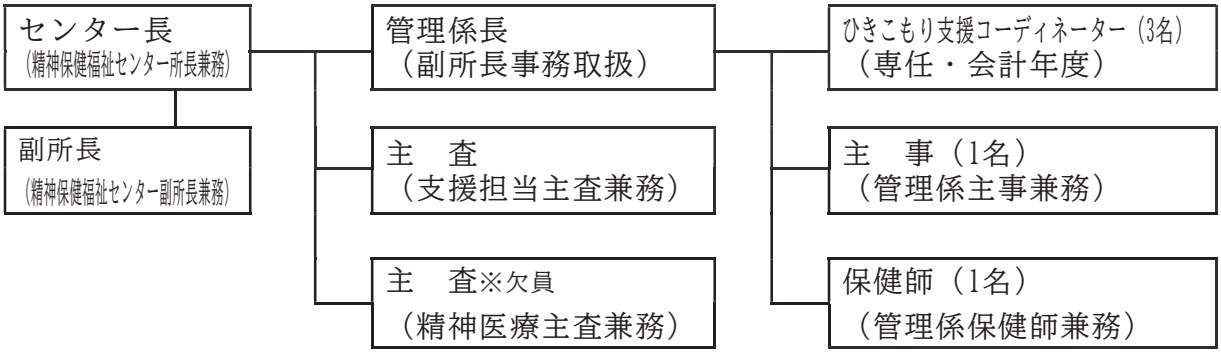
ア　名称：名古屋市ひきこもり地域支援センター

イ　開設：平成24年5月14日

ウ　場所：名古屋市精神保健福祉センターここらぼ内

エ　時間：月曜日～金曜日 8:45～17:15（祝日・年末年始は除く）

（2）組織（令和4年度の体制）




## 3　主な事業内容

（1）ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談

・来所相談（初回相談・継続相談・特定相談）

・電話相談

（2）ひきこもり支援関係機関との連絡調整等

・ひきこもり支援セミナーの開催

・ひきこもり支援関係団体連絡会議の開催

・各種事例検討会、ケース会議等への参加

（3）ひきこもりに関する普及啓発および情報発信

・名古屋ひきこもり支援ガイドマップの作成

・各種リーフレット、家族向けパンフレット、家族向けコミュニケーションプログラム等の作成

・ひきこもり講演会の開催

（4）家族支援

・ひきこもり家族教室の開催

・ひきこもりを考える家族のつどいの開催

（5）その他

・ひきこもり支援サポーター養成研修の開催

・ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修の開催

・ひきこもり支援サポーター派遣事業の実施

## ひきこもりのご本人やご家族等を対象とした相談

### 1　趣旨

市内在住のひきこもり状態にあるご本人やご家族等を対象に臨床心理士等の資格を持つ専任のひきこもり支援コーディネーターによる面接相談を実施するもの。

初回面接相談時には、精神科医、保健師、臨床心理士、精神保健福祉士等の多職種による合議を行い、支援方針を決定している。

また、継続相談利用者のうち、何らかの精神疾患が疑われる等、医学的判断が必要であると認められるものについては、特定相談として、精神科医による無料相談を実施している。

### 2　実施状況

（1）相談日　・初回相談　毎週水曜日（予約制）
・継続相談　随時
・特定相談　原則毎月第4木曜日午前

（2）実績

相談件数（相談対象者の男女別内訳）

| | 来所相談 | 特定相談 | 債務相談 | 電話相談 | 出張相談 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 実（延） | 実（延） | 実（延） | 実（延） | 実（延） |
| 男 | 158(720) | 14(14) | 1(1) | 215(657) | 28(83) |
| 女 | 34(128) | 8(8) | 0 | 79(315) | 7(20) |
| 合計 | 192(848) | 22(22) | 1(1) | 294(972) | 35(103) |

来所者と相談対象者との続柄

| 本人 | 内訳 | | | | | 親 | 内訳 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 本人単独 | 本人両親 | 本人母 | 本人父 | 本人その他 | | 両親 | 母 | 父 |
| 34 | 19 | 1 | 6 | 1 | 7 | 147 | 48 | 83 | 16 |

| 兄弟姉妹 | 内訳 | | その他※ | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 兄弟姉妹単独 | 兄弟姉妹その他 | | |
| 5 | 5 | 0 | 6 | 192 |

（※その他内訳：祖父母、長女、夫、スクールカウンセラー、子ども応援委員会、区役所女性相談員）

相談対象者の年齢構成（面接相談来所時）

| 15歳未満 | 15～19歳 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50歳以上 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 21 | 37 | 35 | 26 | 18 | 12 | 20 | 20 | 0 | 192 |

ひきこもりになってからの期間

| 1年未満 | 1年以上5年未満 | 5年以上10年未満 | 10年以上15年未満 | 15年以上 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 70 | 37 | 22 | 33 | 0 | 192 |

（3）関係機関連携実績

| 保健センター | 民間支援団体 | 仕事・暮らし | なごサポ | いきいき支援センター | 基幹相談支援センター | 子ども・若者 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 40 | 22 | 9 | 14 | 18 | 28 | 102 | 266 |

## ひきこもり支援関係機関との連絡調整等

### 1　ひきこもり支援セミナー

（1）趣旨

ひきこもりに悩むご本人やご家族等への支援活動を行っている機関・団体等の職員等に対して、ひきこもり支援に関する知識と理解を深め、支援の質を向上させることを目的として開催するもの。

（2）実績

ア 対象：市内のひきこもり支援関係機関・団体（保健センター・社会福祉協議会・いきいき支援センター・障害者基幹相談支援センター・雇用関係機関・その他関係団体）

イ 開催方法：オンライン開催

ウ 内容等

| 実施日 | 内容 | 参加 |
|---|---|---|
| 第1回<br>6月17日 | 講演「『ひきこもりを生きる』を支援する」<br>講師：白梅学園大学子ども学部　教授　長谷川　俊雄 氏 | 38名 |
| 第2回<br>7月8日 | 講演「若年層ひきこもり家族への心理的支援」<br>講師：東京未来大学こども心理学部　講師　野中 俊介 氏 | 48名 |
| | 参加延べ人数 | 86名 |

### 2　ひきこもり支援関係団体連絡会議

（1）趣旨

ひきこもりのご本人やご家族等への支援活動を行っている団体等と関係行政機関の連携を強化することを目的として開催するもの。

（2）実績

| | |
|---|---|
| 目的 | 行政機関及び支援団体からの活動報告及び意見交換等を実施する |
| 実施日 | 1月13日 |
| 会場 | 名古屋市精神保健福祉センター |
| 内容 | （1）名古屋市より報告<br>・名古屋市役所健康増進課<br>・名古屋市ひきこもり地域支援センター<br>（2）グループワークおよび意見交換<br>各ひきこもり支援団体および行政機関の取り組み状況や課題について共有し、今後の連携について意見交換した。 |
| 参加 | 35名（24機関）　内訳：行政機関等11名（6機関）<br>ひきこもり支援団体24名（18団体） |

## 1　名古屋ひきこもり支援ガイドマップ

（1）趣旨

ひきこもりのご本人やご家族、支援関係者等を対象に、ひきこもり支援団体等の概要や相談窓口の社会資源等の情報を提供するガイドマップを発行するもの。

（2）実績

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 令和4年度名古屋ひきこもり支援ガイドマップ |
| 対　　象 | ひきこもりのご本人やご家族、関係機関 |
| 発行部数 | 1,000部 |
| 発　行　月 | 令和4年10月 |

## 2　家族向けパンフレット

（1）趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、基本的な対応方針やコミュニケーションのポイントやひきこもりからの回復過程、支援機関に誘うタイミング、相談窓口の情報等を掲載したパンフレットを発行するもの。

（2）実績

令和4年度は改訂版を2,000部作成し、相談に来所したご家族や各関係機関に配布した。

## 3　ひきこもり地域支援センター周知用リーフレット

（1）趣旨

名古屋市ひきこもり地域支援センターについて、市民や関係機関への周知を広く行うため、周知用のリーフレットを発行するもの。

（2）実績

令和4年度は、相談に来所したご家族や各関係機関に配布した。

## 4　家族向けひきこもりコミュニケーションプログラム

（1）趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族等を対象として、①今の状況を客観的に評価する、②ご家族の生活にゆとりを取り戻す、③ご本人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことを目的としたプログラムを発行するもの。

（2）実績

令和4年度は、相談に来所したご家族や各関係機関に配布し、「ひきこもりを考える家族のつどい」でも活用した。

## 5 ひきこもり講演会

(1) 趣旨

ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、家族・支援者・地域それぞれの立場でできること等を考える機会とし、ひきこもり地域支援センター等へ早期に相談するきっかけとなることを目的として開催するもの。

平成24年度のひきこもり地域支援センター開設以降、ひきこもりに関する相談は増加していることから、更なる普及啓発活動をすすめるため、平成19年度から3年間開催していたひきこもり講演会を平成27年度から再開し、毎年実施している。

(2) 実績

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 名古屋市内在住・在勤（学）のひきこもり支援に関心のある方 |
| 実 施 日 | ９月３日 |
| 会　　場 | 名古屋市中村文化小劇場　ホール |
| 内　　容 | 講演　「ひきこもり期を少しだけ楽に過ごすための対話のヒント」<br>講師：一般社団法人 日本自閉症協会　一般相談員 掛川　弥生 氏<br>東京都福祉保健局　心理指導担当 林　弥生 氏 |
| 参　　加 | ９０名 |

## ひきこもり家族教室

### 1　趣旨

ひきこもり地域支援センターへの相談に結びついているご家族に限らず、広くひきこもりに悩むご家族を対象に、ひきこもりに関する正しい知識を学び、家族としてできることや本人へのより良い対応を考える機会を提供するもの。

### 2　実績

| 実 施 日 | 内　容 | 参 加 |
|---|---|---|
| 第1回<br>１０月１４日 | ①講話「ひきこもりの理解と対応」<br>講師：ひきこもり地域支援センター職員<br>②交流会 | 12名 |
| 第2回<br>１０月３１日 | ①講話「ひきこもりと精神科医療」<br>講師：名古屋市立大学病院<br>医師　鈴木 真佐子 氏<br>②交流会 | 10名 |
| 第3回<br>１１月２９日 | ①講話<br>「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」<br>講師：低空飛行 net<br>特定非営利活動法人　なでしこの会<br>②交流会 | 8名 |

| | | |
|---|---|---|
| 第4回<br>１２月９日 | ①講話「支援機関を知ろう」<br>講師：なごや若者サポートステーション　センター長<br>NPO法人まちかどサポートセンター　理事長<br>名古屋市保健所 北保健センター精神保健福祉相談員<br>②交流会 | 8名 |
| | 参加延べ人数 | 38名 |

※ひきこもり支援サポーター養成研修と同時開催とした。

## ひきこもりを考える家族のつどい

### 1　趣旨

ひきこもりの問題に悩んでいるご家族を対象に、勉強会や家族同士の交流を通して、ご家族の対応や周囲の関わりについて考え、新しい視点や情報を共有し、ご家族自身が問題を解決する意欲を高めることができるように開催するもの。

### 2　実績

| 実 施 日 | 内　　容 | 参 加 |
|---|---|---|
| 第1回<br>４月２５日 | 勉強会「今の状況を客観的に評価しよう」＆交流会 | 15家族<br>(16名) |
| (追加実施)<br>４月２８日 | | 8家族<br>(8名) |
| 第2回<br>５月２３日 | 交流会＆テーマについて意見交換 | 16家族<br>(16名) |
| 第3回<br>６月２７日 | 勉強会「家族が元気でいるために」＆交流会 | 13家族<br>(13名) |
| (追加実施)<br>７月１３日 | | 3家族<br>(4名) |
| 第4回<br>７月２５日 | 講義「いきいき支援センターについて知ろう」<br>＆交流会<br>講師：いきいき支援センター | 17家族<br>(18名) |
| 第5回<br>８月２２日 | 勉強会「本人と話すきっかけ作り」＆交流会 | 15家族<br>(16名) |
| 第6回<br>９月１２日 | 生活に役立つセミナー<br>講話「生活保護制度について知ろう」<br>講師：名古屋市職員 | 18家族<br>(19名) |
| 第7回<br>９月２６日 | 交流会＆テーマについて意見交換 | 15家族<br>(16名) |
| 第8回<br>１０月１７日 | 勉強会「話の聴き方」＆交流会 | 16家族<br>(16名) |

| | | |
|---|---|---|
| 第9回<br>１１月８日 | 生活に役立つセミナー<br>講話「心療内科・精神科で受けられる医療について知ろう」<br>講師：精神科医 | 23家族<br>(27名) |
| 第10回<br>１１月２８日 | 交流会＆テーマについて意見交換 | 12家族<br>(12名) |
| 第11回<br>１２月１９日 | 勉強会「本人とのコミュニケーションを豊かにするために」＆交流会 | 14家族<br>(15名) |
| 第12回<br>１月２３日 | 講義「保健センターについて知ろう」＆交流会<br>講師：名古屋市職員 | 12家族<br>(13名) |
| 第13回<br>２月２０日 | 勉強会「気持ちの上手な伝え方」＆交流会 | 15家族<br>(16名) |
| 第14回<br>３月２０日 | 交流会＆テーマについて意見交換 | 12家族<br>(13名) |
| | 参加延べ人数 | 238名 |

## ひきこもり支援サポーター養成研修

### 1　趣旨

一般市民を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情への理解を深め、地域社会でできること等を考えることを目的として実施するもの。平成28年度より開催している。

令和元年度は、民生委員・児童委員及びいきいき支援センター職員を対象として実施したが、令和２年度以降は従前の一般市民を対象とする研修に形式を戻し実施している。

### 2　実績

| 実 施 日 | 内　　容 | 参 加 |
|---|---|---|
| 第1回<br>１０月１４日 | ①講話「ひきこもりの理解と対応」<br>講師：ひきこもり地域支援センター職員<br>②オリエンテーション、交流会 | 14名 |
| 第2回<br>１０月３１日 | 講話「ひきこもりと精神科医療」<br>講師：名古屋市立大学病院<br>医師　鈴木 真佐子 氏 | 14名 |
| 第3回<br>１１月２９日 | 講話「ひきこもり経験者・家族からのメッセージ」<br>講師：低空飛行 net<br>特定非営利活動法人 なでしこの会 | 11名 |

| | | |
|---|---|---|
| 第4回<br>１月１１日 | ①講話「支援機関を知ろう」<br>講師：なごや若者サポートステーション センター長<br>NPO法人まちかどサポートセンター 理事長<br>名古屋市保健所北保健センター 精神保健福祉相談員<br>②交流会 | 11名 |
| | 参加延べ人数 | 50名 |

※ひきこもり家族教室と同時開催とした。

## ひきこもり支援サポーターフォローアップ研修

### 1　趣旨

ひきこもり支援サポーターとして登録された方を対象に、ひきこもりに関する問題や、ひきこもりのご本人やご家族等の心情へのさらなる理解を深めることを目的として実施するもの。平成29年度より開催している。

令和4年度は、ひきこもり支援セミナーへの出席を当フォローアップ研修への参加とした。

## ひきこもり支援サポーター派遣事業

### 1　趣旨

ひきこもり支援サポーター養成研修を受講し、ひきこもり支援サポーターとして登録された者を派遣し、ひきこもり事業への参加・協力等を通してひきこもりへの理解を深めるとともに、地域でできることを考え、ひきこもりのご本人やご家族等への支援を行うこと等を目的として実施するもの。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染状況に留意し、回数を減らして実施した。

### 2　実績

| 日 程 | 活動内容 | 派遣<br>人数 |
|---|---|---|
| １月２３日<br>２月２０日<br>３月２０日 | 「ひきこもりを考える家族のつどい」における運営補助 | 延11名 |

名古屋市精神保健福祉センター所報
第22巻　令和4年度版（2022年度版）

発行日　令和5年9月
発　　行　名古屋市
編　　集　名古屋市精神保健福祉センター